

(様式第 10)

愛大医総第 284 号
平成 27 年 10 月 1 日

厚生労働大臣 塩崎 恭久 殿

開設者名 愛媛大学長 大橋 裕一

愛媛大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

| | |
|-----|-------------------------|
| 住 所 | 〒790-8577 松山市道後樋又10番13号 |
| 氏 名 | 国立大学法人愛媛大学長 大橋 裕一 |

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

| |
|-------------|
| 愛媛大学医学部附属病院 |
|-------------|

3 所在の場所

| | |
|------------------------|-----------------|
| 〒791-0295 愛媛県東温市志津川 | 電話(089)964-5111 |
|------------------------|-----------------|

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

| |
|---|
| <p>① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜</p> <p>2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜</p> |
|---|

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

| | |
|---|-------|
| 内科 | 有 ・ 無 |
| 内科と組み合わせた診療科名等 1. 循環器内科 2. 消化器内科 3. 老年・神経内科 4. 薬物療法・神経内科 | |
| 診療実績 | |

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

| | |
|---|---------|
| 外科 | (有) ・ 無 |
| 外科と組み合わせた診療科名 1. 消化器腫瘍外科 2. 肝臓・胆のう・膵臓・移植外科 3. 消化器外科 4. 心臓血管・呼吸器外科 5. 形成外科 | |
| 診療実績 | |

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

| | | | | | | |
|----------|------|-------|--------|-------|----------|-------|
| ①精神科 | ②小児科 | ③整形外科 | ④脳神経外科 | ⑤皮膚科 | ⑥泌尿器科 | ⑦産婦人科 |
| 8産科 | 9婦人科 | ⑩眼科 | ⑪耳鼻咽喉科 | ⑫放射線科 | 13放射線診断科 | |
| 14放射線治療科 | ⑬麻酔科 | ⑭救急科 | | | | |

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

| | |
|----------------------------|---------|
| 歯科 | (有) ・ 無 |
| 歯科と組み合わせた診療科名 1. 歯科口腔外科 | |
| 歯科の診療体制 | |

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

| |
|----------|
| 1. 病理診断科 |
|----------|

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

| 精神 | 感染症 | 結核 | 療養 | 一般 | 合計 |
|-----|-----|----|----|------|------|
| 40床 | 床 | 床 | 床 | 586床 | 626床 |

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年10月1日現在)

| 職 種 | 常 勤 | 非常勤 | 合 計 | 職 種 | 員 数 | 職 種 | 員 数 |
|-------|------|------|--------|---------|-----|-----------|------|
| 医 師 | 219人 | 166人 | 345.4人 | 看護補助者 | 65人 | 診療エックス線技師 | 0人 |
| 歯科医師 | 6人 | 9人 | 12.6人 | 理学療法士 | 9人 | 臨床検査技師 | 43人 |
| 薬剤師 | 45人 | 1人 | 45.7人 | 作業療法士 | 4人 | | |
| 保健師 | 0人 | 0人 | 0人 | 視能訓練士 | 5人 | その他 | 0人 |
| 助産師 | 14人 | 0人 | 14人 | 義肢装具士 | 0人 | | |
| 看護師 | 617人 | 24人 | 634.4人 | 臨床工学士 | 13人 | 医療社会事業従事者 | 9人 |
| 准看護師 | 0人 | 0人 | 0人 | 栄養士 | 0人 | その他の技術員 | 22人 |
| 歯科衛生士 | 5人 | 0人 | 5人 | 歯科技工士 | 2人 | 事務職員 | 140人 |
| 管理栄養士 | 10人 | 0人 | 10人 | 診療放射線技師 | 33人 | その他の職員 | 29人 |

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年 10月 1日現在)

| 専門医名 | 人 数 | 専門医名 | 人 数 |
|---------|-----|----------|------|
| 総合内科専門医 | 22人 | 眼科専門医 | 13人 |
| 外科専門医 | 26人 | 耳鼻咽喉科専門医 | 9人 |
| 精神科専門医 | 11人 | 放射線科専門医 | 14人 |
| 小児科専門医 | 18人 | 脳神経外科専門医 | 7人 |
| 皮膚科専門医 | 8人 | 整形外科専門医 | 16人 |
| 泌尿器科専門医 | 10人 | 麻酔科専門医 | 5人 |
| 産婦人科専門医 | 8人 | 救急科専門医 | 7人 |
| | | 合 計 | 174人 |

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

| | 歯科等以外 | 歯科等 | 合 計 |
|--------------|---------|-------|---------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 536.6人 | 14.7人 | 551.3人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 1182.1人 | 54.9人 | 1237.0人 |
| 1日当たり平均調剤数 | | | 839.9剤 |
| 必要医師数 | | | 127人 |
| 必要歯科医師数 | | | 5人 |
| 必要薬剤師数 | | | 19人 |
| 必要(准)看護師数 | | | 318人 |

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

| 施設名 | 床面積 | 主要構造 | 設 備 概 要 | | | |
|--------------|-----------------------|--------------|---------------------------------------|-------|---------|-----------|
| 集中治療室 | m ² 432 | 鉄筋コンクリート | 病床数 | 22床 | 心電計 | (有)・無 |
| | | | 人工呼吸装置 | (有)・無 | 心細動除去装置 | (有)・無 |
| | | | その他の救急蘇生装置 | (有)・無 | ペースメーカー | (有)・無 |
| 無菌病室等 | [固定式の場合] [移動式の場合] | 床面積 台数 | 282 m ² 台 | 病床数 | 14床 | |
| 医薬品 情報管理室 | [専用室の場合] [共用室の場合] | 床積 共用する室名 | 20 m ² | | | |
| 化学検査室 | 302 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 全自動検体検査システム 全自動化学発光免疫測定装置 | | | |
| 細菌検査室 | 266 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) MALDI-ハイパー(細菌同定装置) 自動細菌培養装置 | | | |
| 病理検査室 | 175 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 液状化検体細胞診標本作製装置 自動免疫染色装置 | | | |
| 病理解剖室 | 112 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 剖検台, 局所排気装置 | | | |
| 研究室 | 314 m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) パソコン、顕微鏡、プロジェクターなど | | | |
| 講義室 | 734 m ² | 鉄筋コンクリート | 室数 | 18室 | 収容定員 | 300人 |
| 図書室 | 99 m ² | 鉄筋コンクリート | 室数 | 1室 | 蔵書数 | 10,000冊程度 |

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

| 算定期間 | | 平成26年4月1日～平成27年3月31日 | |
|------|------------------------|----------------------|---------|
| 紹介率 | 91.5% | 逆紹介率 | 57.1% |
| 算出根拠 | A: 紹介患者の数 | | 12,626人 |
| | B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | | 8,028人 |
| | C: 救急用自動車によって搬入された患者の数 | | 240人 |
| | D: 初診の患者の数 | | 14,050人 |

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|--------------------|-------|
| 多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術 | 6人 |
| 前眼部三次元画像解析 | 2人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|---|-------|
| パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん | 0人 |
| インターフェロン α 皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。) | 0人 |
| ベペルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法 閉塞性動脈硬化症又はビュルガー病(血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類III度又はIV度のものに限る。) | 0人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| | | | |
|-------------------|--|-------|---|
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 実績なし | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

| 疾患名 | 取扱患者数 | 疾患名 | 取扱患者数 |
|--|-------|---|-------|
| ・ベーチェット病 | 69人 | ・膿疱性乾癬 | 7人 |
| ・多発性硬化症 | 104人 | ・広範脊柱管狭窄症 | 2人 |
| ・重症筋無力症 | 76人 | ・原発性胆汁性肝硬変 | 39人 |
| ・全身性エリテマトーデス | 157人 | ・重症急性膵炎 | 2人 |
| ・スモン | 0人 | ・特発性大腿骨頭壊死症 | 76人 |
| ・再生不良性貧血 | 27人 | ・混合性結合組織病 | 47人 |
| ・サルコイドーシス | 65人 | ・原発性免疫不全症候群 | 4人 |
| ・筋萎縮性側索硬化症 | 26人 | ・特発性間質性肺炎 | 6人 |
| ・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎 | 145人 | ・網膜色素変性症 | 27人 |
| ・特発性血小板減少性紫斑病 | 48人 | ・プリオン病 | 5人 |
| ・結節性動脈周囲炎 | 32人 | ・肺動脈性肺高血圧症 | 5人 |
| ・潰瘍性大腸炎 | 105人 | ・神経線維腫症 | 11人 |
| ・大動脈炎症候群 | 25人 | ・亜急性硬化性全脳炎 | 0人 |
| ・ピュルガー病 | 7人 | ・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群 | 2人 |
| ・天疱瘡 | 48人 | ・慢性血栓性肺高血圧症 | 2人 |
| ・脊髄小脳変性症 | 42人 | ・ライソゾーム病 | 4人 |
| ・クローン病 | 44人 | ・副腎白質ジストロフィー | 0人 |
| ・難治性の肝炎のうち劇症肝炎 | 0人 | ・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 0人 |
| ・悪性関節リウマチ | 4人 | ・脊髄性筋萎縮症 | 2人 |
| ・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病) | 206人 | ・球脊髄性筋萎縮症 | 0人 |
| | | ・慢性炎症性脱髄性多発神経炎 | 13人 |
| ・アミロイドーシス | 10人 | ・肥大型心筋症 | 5人 |
| ・後縦靭帯骨化症 | 119人 | ・拘束型心筋症 | 0人 |
| ・ハンチントン病 | 0人 | ・ミトコンドリア病 | 9人 |
| ・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症) | 35人 | ・リンパ脈管筋腫症(LAM) | 1人 |
| ・ウェゲナー肉芽腫症 | 12人 | ・重症多形滲出性紅斑(急性期) | 1人 |
| ・特発性拡張型(うっ血型)心筋症 | 35人 | ・黄色靭帯骨化症 | 13人 |
| ・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群) | 19人 | ・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症) | 54人 |
| ・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型) | 5人 | | |

(注)「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|-----------------|------------------|
| 地域歯科診療支援病院歯科初診料 | 総合評価加算 |
| 歯科外来診療環境体制加算 | 病棟薬剤業務実施加算 |
| 歯科診療特別対応連携加算 | データ提出加算 |
| 特定機能病院入院基本料 | 特定集中治療室管理料4 |
| 看護補助加算 | 脳卒中ケアユニット入院医療管理料 |
| 臨床研修病院入院診療加算 | 新生児特定集中治療室管理料0 |
| 救急医療管理加算 | 新生児治療回復室入院医療管理料 |
| 超急性期脳卒中加算 | 小児入院医療管理料2 |
| 妊産婦緊急搬送入院加算 | 小児入院医療管理料4 |
| 診療録管理体制加算2 | 短期滞在手術等基本料2 |
| 急性期看護補助体制加算 | 入院時食事療養／生活療養(I) |
| 療養環境加算 | . |
| 重症者等療養環境特別加算 | . |
| 無菌治療室管理加算1 | . |
| 無菌治療室管理加算2 | . |
| 緩和ケア診療加算 | . |
| 精神科身体合併症管理加算 | . |
| がん診療連携拠点病院加算 | . |
| 栄養サポートチーム加算 | . |
| 医療安全対策加算1 | . |
| 感染防止対策加算1 | . |
| 患者サポート体制充実加算 | . |
| ハイリスク妊娠管理加算 | . |
| ハイリスク分娩管理加算 | . |
| 退院調整加算 | . |
| 救急搬送患者地域連携紹介加算 | . |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|------------------------------|--------------------------|
| 植込型除細動器移行期加算 | 検体検査管理加算(IV) |
| 高度難聴指導管理料 | 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 |
| 糖尿病合併症管理料 | 植込型心電図検査 |
| がん性疼痛緩和指導管理料 | 時間内歩行試験 |
| がん患者指導管理料1 | 胎児心エコー法 |
| がん患者指導管理料2 | ヘッドアップティルト試験 |
| がん患者指導管理料3 | 皮下連続式グルコース測定 |
| 移植後患者指導管理料(臓器移植後) | 長期継続頭蓋内脳波検査 |
| 移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後) | 神経学的検査 |
| 糖尿病透析予防指導管理料 | 補聴器適合検査 |
| 外来リハビリテーション診療料 | ロービジョン検査判断料 |
| ニコチン依存症管理料 | コンタクトレンズ検査料1 |
| 歯科治療総合医療管理料 | 小児食物アレルギー負荷検査 |
| 地域連携診療計画管理料 | 内服・点滴誘発試験 |
| がん治療連携計画策定料 | CT透視下気管支鏡検査加算 |
| がん治療連携管理料 | 画像診断管理加算2 |
| 認知症専門診断管理料 | 遠隔画像診断 |
| 肝炎インターフェロン治療計画料 | ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影 |
| 薬剤管理指導料 | CT撮影及びMRI撮影 |
| 医療機器安全管理料1 | 冠動脈CT撮影加算 |
| 医療機器安全管理料2 | 大腸CT撮影加算 |
| 医療機器安全管理料(歯科) | 心臓MRI撮影加算 |
| 持続血糖測定器加算 | 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 |
| 造血器腫瘍遺伝子検査 | 外来化学療法加算1 |
| HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) | 無菌製剤処理料 |
| 検体検査管理加算(I) | 脳血管疾患等リハビリテーション料(I) |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---|---|
| 運動器リハビリテーション料(Ⅰ) | 植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術 |
| 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) | 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術 |
| 歯科口腔リハビリテーション料2 | 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの) |
| 精神科作業療法 | 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術 |
| 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。) | 大動脈バルーンパンピング法(IABP法) |
| 医療保護入院等診療料 | 補助人工心臓 |
| エタノールの局所注入(甲状腺) | 植込型補助人工心臓(非拍動流型) |
| エタノールの局所注入(副甲状腺) | 経皮的動脈遮断術 |
| 一酸化窒素吸入療法 | 内視鏡下下肢静脈瘤不全穿通枝切離術 |
| CAD/CAM冠 | ダメージコントロール手術 |
| 歯周組織再生誘導手術 | 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術 |
| 広範囲顎骨支持型装置埋入手術 | 腹腔鏡下肝切除術 |
| 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。) | 生体部分肝移植術 |
| 頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。) | 同種死体肝移植術 |
| 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術 | 腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術 |
| 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 | 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 |
| 治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。)) | 同種死体腎移植術 |
| 羊膜移植術 | 生体腎移植術 |
| 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)) | 膀胱水圧拡張術 |
| 網膜再建術 | 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 |
| 人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術 | 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 |
| 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術) | 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。) |
| 乳がんセンチネルリンパ節加算1 | 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術 |
| 経皮的冠動脈形成術 | 輸血管管理料Ⅰ |
| 経皮的冠動脈ステント留置術 | 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 |
| ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 | 内視鏡手術用支援機器加算 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類 | 施設基準等の種類 |
|---|----------|
| 超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。)のうち、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。)に係るものに限る。) | ・ |
| 先天性難聴の遺伝子診断(他の保険医療機関に対して検体の採取以外の業務を委託するもの) | ・ |
| インプラント義歯 | ・ |
| 難治性眼疾患に対する羊膜移植術 | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

| | |
|-------------------------------------|---|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況 | ① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 38回 |
| 剖 検 の 状 況 | 剖検症例数 17 例 / 剖検 10.0 % |

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 |
|---|-----------------------|---------------|------------|------------|
| アcantアメラ角膜炎制御にむけたコンタクトレンズケアの実態調査 | 大橋 裕一 | 大学院医学系研究科 | 3,000,000 | 補委 厚生労働省 |
| 中高度難聴者への超磁歪素子を用いた埋め込み型骨導人工中耳の開発 | 羽藤 直人 | 大学院医学系研究科 | 9,158,000 | 補委 厚生労働省 |
| がんに対する新規免疫遺伝子治療の開発研究 | 安川 正貴 | 大学院医学系研究科 | 600,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 鶏二分脊椎における神経回路に関する研究 | カーン モハメド シャキル イスラム | 大学院医学系研究科 | 1,200,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 蛍光イメージングと光操作を駆使したがん転移におけるEMTとMETの時空間解析 | 椿原 裕太郎 | 大学院医学系研究科 | 1,000,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 新規intravital蛍光イメージングシステムの開発とがん微小環境の解析 | 今村 健志 | 大学院医学系研究科 | 11,800,000 | 補委 日本学術振興会 |
| ADAM17を介するShedding制御機構とレムナントペプチドシグナルの解析 | 東山 繁樹 | プロテオサイエンスセンター | 3,300,000 | 補委 日本学術振興会 |
| マラリア原虫スポロゾイトの蚊唾液腺侵入を担う分子群の解析 | 鳥居 本美 | プロテオサイエンスセンター | 3,300,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 白血病幹細胞根絶を目指した人工CTLによる新規免疫遺伝子治療の開発研究 | 安川 正貴 | 大学院医学系研究科 | 3,000,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 口腔癌関連microRNAの発現機能解析と臨床応用 | 中城 公一 | 大学院医学系研究科 | 2,500,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 生体の非線形光学効果を利用した無染色イメージングの医療応用のための基礎基盤研究 | 大嶋 佑介 | 大学院医学系研究科 | 1,300,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 新たな血管新生バランス制御因子CUL3の多機能解析 | 東山 繁樹 | プロテオサイエンスセンター | 4,300,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 核マトリクス変動を介したT細胞運命制御機構の解 | 山下 政克 | 大学院医学系研究科 | 4,400,000 | 補委 日本学術振興会 |
| Smurf/Arkadiaによる表皮自然免疫の分子制御機構の解明 | 佐山 浩二 | 大学院医学系研究科 | 3,800,000 | 補委 日本学術振興会 |
| アミノ酸転移酵素AGXT2に注目した精神障害の解析研究 | 上野 修一 | 大学院医学系研究科 | 900,000 | 補委 日本学術振興会 |
| アンジオテンシンIIタイプ2受容体機能調節物質を軸とした体系的認知機能増加制御 | 堀内 正嗣 | 大学院医学系研究科 | 3,400,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 宿主免疫評価に基づいた口腔癌分子標的免疫療法の開発 | 浜川 裕之 | 大学院医学系研究科 | 3,100,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 三日熱マラリア伝搬阻止ワクチン候補抗原の探索 | 鳥居 本美 | プロテオサイエンスセンター | 3,200,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 睡眠覚醒機構への早期介入による精神機能の自己制御修復支援 | 岡 靖哲 | 医学部附属病院 | 5,900,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 転写抑制因子Bach2による慢性アレルギー炎症制御機構の解明 | 山下 政克 | 大学院医学系研究科 | 2,000,000 | 補委 日本学術振興会 |
| 自己炎症疾患責任遺伝子変異症例の前向き研究による自己炎症疾患発症トリガーの解明 | 増本 純也 | プロテオサイエンスセンター | 2,600,000 | 補委 日本学術振興会 |

| | | | | | |
|--|-------|---------------|-----------|----|---------|
| イメージング・シミュレーション・オミクスによる骨格形成機構の多角的解析 | 飯村 忠浩 | プロテオサイエンスセンター | 1,700,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 流行地患者血液を用いた新規伝搬阻止ワクチン候補抗原の有効性の検討 | 石野 智子 | プロテオサイエンスセンター | 1,800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| トルコと日本の自己炎症疾患症例の血清中インフラマソーム活性化因子の比較調査研究 | 増本 純也 | プロテオサイエンスセンター | 1,800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 骨由来の骨格筋増強作用を持つ新規タンパク質の同定 | 榊原 伊織 | プロテオサイエンスセンター | 1,100,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| てんかん誘発情動機能障害に対するニコチン受容体作用薬の検討およびメカニズムの解明 | 武智 研志 | 医学部附属病院 | 500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 中枢の腸炎増悪因子を標的とした潰瘍性大腸炎治療薬の探索 | 田坂 祐一 | 医学部附属病院 | 500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 放射線誘発口腔粘膜炎に対するバルプロ酸ナトリウムの有用性に関する研究 | 渡邊 真一 | 医学部附属病院 | 500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた培養皮膚の作製法の開発 | 亀田 健治 | 総合科学研究支援センター | 900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| ADAM17を介するShedding制御機構とレムナントペプチドシグナルの解析 | 東山 繁樹 | プロテオサイエンスセンター | 1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| マラリア原虫スポロゾイトの蚊唾液腺侵入を担う分子群の解析 | 鳥居 本美 | プロテオサイエンスセンター | 1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 白血病幹細胞根絶を目指した人工CTLによる新規免疫遺伝子治療の開発研究 | 安川 正貴 | 大学院医学系研究科 | 1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 口腔癌関連microRNAの発現機能解析と臨床応用 | 中城 公一 | 大学院医学系研究科 | 700,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 運動器分野の検診と理学療法指導体制の包括的連携を実現する医療情報システムの開発 | 高橋 敏明 | 医学部附属病院 | 1,000,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 専門職連携教育による地域医療実習を通じて形成される地域指向性を評価する尺度の開発 | 川本 龍一 | 大学院医学系研究科 | 600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 蛍光標識タイムラプス記録法を用いたプロボサシンの細胞内動態の追跡 | 小林 直人 | 大学院医学系研究科 | 600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| サイトカインシグナルによる乳腺細胞の腺房構築異常とがん化との関連 | 福田 信治 | プロテオサイエンスセンター | 1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 破骨細胞前駆細胞における破骨細胞分化因子受容体(RANK)発現制御機構の解析 | 北澤 理子 | 医学部附属病院 | 500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 蚊中腸内マラリア原虫の虫体表面に発現する分子の機能解析 | 橘 真由美 | プロテオサイエンスセンター | 1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 小児睡眠時無呼吸症候群の疫学と介入研究 | 岡 靖哲 | 医学部附属病院 | 700,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 2型糖尿病の腎障害発症リスクに及ぼす食事中脂質の影響 | 住吉 真帆 | 大学院医学系研究科 | 16,656 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 新規アディポカインBAFFが非アルコール性脂肪性肝疾患の病態に及ぼす影響 | 阿部 雅則 | 大学院医学系研究科 | 1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 肝細胞癌におけるPKRの役割とその宿主細胞機能修飾 | 日浅 陽一 | 大学院医学系研究科 | 1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 骨髄増殖性腫瘍の新しい原因遺伝子Lnkの機能解析 | 山之内 純 | 医学部附属病院 | 1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 免疫記憶細胞化した遺伝子改変T細胞を利用する白血病に対する新規細胞免疫療法の開発 | 藤原 弘 | 医学部附属病院 | 1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |

| | | | | | |
|--|--------|---------------|-----------|----|---------|
| ヒト制御性T細胞および免疫抑制系樹状細胞の効率良い誘導法の確立と治療への展開 | 長谷川 均 | 大学院医学系研究科 | 1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 心停止ドナー肝移植の実施に向けた前臨床研究 | 高田 泰次 | 大学院医学系研究科 | 500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 心移植後の慢性拒絶反応(冠動脈硬化病変)発生机序解明に関する研究 | 泉谷 裕則 | 大学院医学系研究科 | 1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 脊髄損傷後に新生する神経回路の解明とp38 MAPS inhibitorの効果 | 森野 忠夫 | 医学部附属病院 | 800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| マウス表皮細胞から形質転換した角膜上皮様細胞を用いた角膜上皮再建の試み | 小林 剛 | 大学院医学系研究科 | 1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| アポトーシス、アイノキス抵抗性の解除に着目した転移制御研究 | 日野 聡史 | 医学部附属病院 | 900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 脳波解析によるアロマ足浴の入眠効果に関する研究 | 乗松 貞子 | 大学院医学系研究科 | 300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 高齢がん患者の終末期に関する意思決定支援プログラムの開発 | 森 一恵 | 大学院医学系研究科 | 645,343 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 生体の非線形光学効果を利用した無染色イメージングの医療応用のための基礎基盤研究 | 大嶋 佑介 | 大学院医学系研究科 | 400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 更年期女性の不定愁訴を客観的に評価する指標の開発 | 城賀本 晶子 | 大学院医学系研究科 | 600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 網羅的遺伝子解析による心房細動基質の検討 | 永井 啓行 | 医学部附属病院 | 400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| アデニンレセプターを介する術後疼痛治療法の開発 | 堀内 秀樹 | 医学部附属病院 | 600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| Smurf/Arkadiaによる表皮自然免疫の分子制御機構の解明 | 佐山 浩二 | 大学院医学系研究科 | 500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| アミノ酸転移酵素AGXT2に注目した精神障害の解析研究 | 上野 修一 | 大学院医学系研究科 | 1,600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| アンジオテンシンIIタイプ2受容体機能調節物質を軸とした体系的認知機能増加制御 | 堀内 正嗣 | 大学院医学系研究科 | 800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 宿主免疫評価に基づいた口腔癌分子標的免疫療法の開発 | 浜川 裕之 | 大学院医学系研究科 | 800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 三日熱マラリア伝搬阻止ワクチン候補抗原の探索 | 鳥居 本美 | プロテオサイエンスセンター | 1,000,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 正常靭帯機能を有する次世代人工膝関節の開発 | 日野 和典 | 医学部附属病院 | 900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 着床前胚における分泌型プロサポシン産生細胞の同定と細胞内動態の解明 | 下川 哲哉 | 大学院医学系研究科 | 1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| HLAによる糖尿病の新分類の試み | 大沼 裕 | 大学院医学系研究科 | 1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| N-Halfオステオポンチンを介した動脈硬化プラーク破裂機構の解明と新規治療戦略 | 入田 純 | 医学部附属病院 | 1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| SNP・環境因子統合エピジェネティックによるレジスチン遺伝子発現調節機構の解明 | 大澤 春彦 | 大学院医学系研究科 | 1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 熱性痙攣と内側側頭葉てんかんの神経免疫学的機序の解明と新たな分子標的療法の開発 | 福田 光成 | 医学部附属病院 | 1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| MLL転座型白血病の白血病幹細胞の同定と治療応用に向けての基礎研究 | 江口 真理子 | 大学院医学系研究科 | 1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |

| | | | | | |
|--|--------|---------------|-----------|--------|---------|
| エクリン汗免疫異常の改善による常 蹠膿疱症の病態制御 | 村上 正基 | 医学部附属病院 | 1,000,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| IL-22によるヒト表皮角化細胞の分化 の制御についての検討 | 藤山 幹子 | 大学院医学系研究科 | 1,400,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 半導体SPECTを用いた心筋局所血 流の定性・定量解析による虚血性心 疾患の総合診断 | 宮川 正男 | 医学部附属病院 | 500,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 心サルコイドーシスの診断における FDG-PET検査の有用性に関する検 討 | 望月 輝一 | 大学院医学系研究科 | 1,200,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 大動脈周囲脂肪組織のアンジオテ ンⅡ受容体サブタイプが大動脈瘤 発症に与える影響 | 鈴木 純 | 大学院医学系研究科 | 1,000,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 血液脳関門の破綻により誘導される 糖尿病性認知症への分子病態の解 明と治療戦略 | 茂木 正樹 | 大学院医学系研究科 | 1,500,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| microRNAプロファイリングによる悪性 グリオーマの新規治療法の開発 | 大西 丘倫 | 大学院医学系研究科 | 700,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 多光子顕微鏡による二分脊椎神経回 路の可視化 | 松田 正司 | 大学院医学系研究科 | 1,200,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 卵巣癌に対するナノポリマー修飾新 規ウイルス療法の開発 | 那波 明宏 | 大学院医学系研究科 | 79,984 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 骨髄幹細胞を用いた虚血性難聴に 対する新規の再生治療法の開発 | 阪中 雅広 | 大学院医学系研究科 | 1,600,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| バイオイメーキングを用いた角膜実質 幹細胞の同定 | 林 康人 | 医学部附属病院 | 1,600,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 新規抗菌物質Firmocidin及びエクリン 汗自然免疫を応用した創傷治療シス テム | 中岡 啓喜 | 医学部附属病院 | 1,100,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 小児1型糖尿病患者へのメンタリ ングを用いた教育・看護介入プログラ ムの応用的研究 | 薬師神 裕子 | 大学院医学系研究科 | 1,100,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| マラリア原虫雄特異的に発現するプ ロテアーゼの機能解析 | 石野 智子 | プロテオサイエンスセンター | 1,200,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 活性化T細胞運命決定の普遍的分子 機構の解明 | 山下 政克 | 大学院医学系研究科 | 1,200,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| フレイルティリスクとしての自律神経機 能障害:立位負荷による評価 | 小原 克彦 | 大学院医学系研究科 | 800,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| コムギ胚芽無細胞蛋白質合成による IgG4関連腎疾患の抗原同定と腎病 理形態の解析 | 増本 純也 | プロテオサイエンスセンター | 1,700,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| Id蛋白脱ユビキチン化酵素阻害によ る口腔癌分化誘導療法 | 村瀬 隆一 | 医学部附属病院 | 1,600,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 口腔癌先制医療への唾液 microRNA の応用 | 浜川 裕之 | 大学院医学系研究科 | 1,400,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 肥満に伴う肝発癌に寄与する脂肪酸 組成の同定とその機序の解明 | 三宅 映己 | 大学院医学系研究科 | 1,400,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 雄性生殖管を基軸とする雌性生殖器 の新たな発生基盤 | 原口 竜摩 | 大学院医学系研究科 | 400,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| T細胞運命決定における転写抑制因 子Bach2の役割解析 | 桑原 誠 | 医学部附属病院 | 1,200,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 睡眠時間及び睡眠の質と血圧及び 動脈硬化との関連に関する疫学研究 | 江口 依里 | 大学院医学系研究科 | 800,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 地域高齢者の悉皆調査による認知症 とリスク要因としての抑うつとの関連 の実態調査 | 松本 光央 | 医学部附属病院 | 800,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |

| | | | | | |
|--|--------|---------------|-----------|----|---------|
| 糖尿病予防におけるビタミンD-カルシウムの相互作用に関するコホート研究 | 丸山 広達 | 大学院医学系研究科 | 308,217 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 肝および肝腫瘍の非侵襲的硬度測定と臨床的有用性 | 小泉 洋平 | 医学部附属病院 | 800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| アルツハイマー病の精神行動障害と脳画像および神経栄養因子の総合的解析 | 森 崇明 | 医学部附属病院 | 1,100,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 生体光イメージングを利用した膠芽腫幹細胞の機能解析と分化誘導療法の新規開発 | 井上 明宏 | 医学部附属病院 | 600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 光線力学療法による角膜感染症治療の試み | 岡 奈央子 | 医学部附属病院 | 600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| OncomiR を標的とした新規口腔癌治療の開発 | 田中 宏史 | 医学部附属病院 | 1,600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| Zfp521ノックアウトマウスは造血器および脳神経の発生分化機構の解明に寄与する | 松原 悦子 | 大学院医学系研究科 | 1,000,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 転写抑制因子Bach2による慢性アレルギー炎症制御機構の解明 | 山下 政克 | 大学院医学系研究科 | 3,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 自己炎症疾患責任遺伝子変異症例の前向き研究による自己炎症疾患発症トリガーの解明 | 増本 純也 | プロテオサイエンスセンター | 4,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| イメージング・シミュレーション・オミクスによる骨格形成機構の多角的解析 | 飯村 忠浩 | プロテオサイエンスセンター | 2,900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 流行地患者血液を用いた新規遺伝子阻阻止ワクチン候補抗原の有効性の検討 | 石野 智子 | プロテオサイエンスセンター | 2,900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| トルコと日本の自己炎症疾患症例の血清中インフラマソーム活性化因子の比較調査研究 | 増本 純也 | プロテオサイエンスセンター | 2,900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 嚥下関与筋のアンチエイジングに関する研究-筋萎縮分子機構の解明- | 田口 亜紀 | 大学院医学系研究科 | 560,039 | 補委 | 日本学術振興会 |
| T細胞の疲弊を制御する分子メカニズムの解明 | 山田 武司 | 大学院医学系研究科 | 1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 新規潰瘍性大腸炎治療薬の探索 | 荒木 博陽 | 医学部附属病院 | 1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| レジスチンが1型糖尿病に関連するメカニズムの解明と、インスリン依存予知法の確立 | 高田 康德 | 医学部附属病院 | 1,900,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 自律神経系機能の低下と糖尿病発症に関するコホート研究 | 斉藤 功 | 大学院医学系研究科 | 1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 睡眠呼吸障害が肝疾患患者の予後に及ぼす影響に関する多施設共同疫学研究 | 古川 慎哉 | 大学院医学系研究科 | 2,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 天然物成分の腫瘍組織環境制御による抗腫瘍効果とその作用機構 | 木村 善行 | 大学院医学系研究科 | 1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 消化管ホルモン受容体相互連関および機能発現の解析 | 松浦 文三 | 大学院医学系研究科 | 1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 門脈圧亢進症による脾血流動態異常が脾内分泌障害および脾外内分泌障害に及ぼす影響 | 熊木 天児 | 大学院医学系研究科 | 1,700,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 先制医療の実現にむけたエクソーム解析による遺伝性心筋症のリスク層別化の検討 | 大木元 明義 | 医学部附属病院 | 2,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 血栓症における血漿トロンビン切断型オステオポンチン測定の有用性 | 檜垣 實男 | 大学院医学系研究科 | 2,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| Xe-CTによる呼吸機能の形態的評価方法の開発 | 伊東 亮治 | 医学部附属病院 | 128,809 | 補委 | 日本学術振興会 |

| | | | | | |
|--|--------|---------------|-----------|----|---------|
| 先天性血小板減少症の新たな原因遺伝子の同定とその機能解析 | 羽藤 高明 | 医学部附属病院 | 1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 造血幹細胞へのT細胞レセプター遺伝子導入による革新的造血幹細胞移植療法の開発 | 東 太地 | 医学部附属病院 | 1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 新生児の腸内フローラの形成が成長発達に与える影響に関する研究 | 田内 久道 | 医学部附属病院 | 1,100,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| TEL-AML1陽性白血病の発症過程の解明と分子標的療法の開発 | 江口 峰斉 | 医学部附属病院 | 1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| ヒト表皮多層化に伴う細胞動態とアクチン繊維動態の全系譜解析 | 難波 大輔 | プロテオサイエンスセンター | 628,339 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 心停止ドナーからの肺移植における血管内皮細胞の破綻とその抑制 | 岡崎 幹生 | 医学部附属病院 | 1,700,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 梗塞巣への浸潤細胞を使って脳梗塞を治す | 久門 良明 | 大学院医学系研究科 | 1,200,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 妊娠高血圧症候群の病態形成にはトロポブラストに発現するHMGA1が関与している | 松原 圭一 | 医学部附属病院 | 2,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| リポソーム加工オンコリティックアデノウイルスによる卵巣癌特異的遺伝子治療法の開発 | 濱田 雄行 | 医学部附属病院 | 1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 遺伝子改変マウスを用いた子宮頸癌発生における各種増殖因子・癌遺伝子の役割の解明 | 松元 隆 | 大学院医学系研究科 | 1,600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 神経幹細胞の全身投与による虚血性内耳障害抑制効果の研究 | 白馬 伸洋 | 医学部附属病院 | 1,100,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 骨髄線維芽細胞の注入による角膜実質再生 | 大橋 裕一 | 大学院医学系研究科 | 2,100,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| マウス皮膚上皮SP細胞から角膜上皮細胞への形質転換誘導因子の同定 | 白石 敦 | 大学院医学系研究科 | 1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| リンパ節転移機構の解明による新規口腔癌治療戦略の確立 | 合田 啓之 | 医学部附属病院 | 1,800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 排泄障害のある認知症高齢者の潜在能力を活用した排泄行動援助プログラムの有効性 | 陶山 啓子 | 大学院医学系研究科 | 1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 高齢者入所施設で排尿誘導法を効果的に実践するためのプロトコールの作成 | 中村 五月 | 大学院医学系研究科 | 1,400,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 在宅要介護高齢者の排泄障害の介入時期に基づいた援助プログラムの有効性 | 田中 久美子 | 大学院医学系研究科 | 1,000,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 幼児・学童期発達障害児と親を支援する先輩親からのメンタリング・プログラムの開発 | 西嶋 真理子 | 大学院医学系研究科 | 800,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 大型動物とCadaverを用いた腹腔鏡手術における上方照明システムの有用性の検討 | 高井 昭洋 | 医学部附属病院 | 1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| エクドメイン・シェディングのゆらぎ解析とがん細胞動態予測への応用 | 東山 繁樹 | プロテオサイエンスセンター | 1,700,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 塩基配列特異的なメチル化シトシンin situ検出法の開発 | 北澤 荘平 | 大学院医学系研究科 | 1,000,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| がんに対する抗体療法と細胞療法とのクロストーク治療法の開発 | 安川 正貴 | 大学院医学系研究科 | 1,500,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 小児急性白血病の発症前診断法の開発 | 石井 榮一 | 大学院医学系研究科 | 1,600,000 | 補委 | 日本学術振興会 |
| 骨代謝細胞ネットワークのインビトロにおける再構成と蛍光技術を駆使した時空間的解析 | 疋田 温彦 | 大学院医学系研究科 | 1,300,000 | 補委 | 日本学術振興会 |

| | | | | | |
|---|--------|---------------|-----------|--------|---------|
| 遺残性真珠腫の根絶を目指して— Galectin-7染色による真珠腫の術中 同定— | 羽藤 直人 | 大学院医学系研究科 | 1,400,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 口腔癌診療への liquid biopsy の応 用 | 中城 公一 | 大学院医学系研究科 | 1,400,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| CUL3によるin vivo時空間的血管新 生制御機構の解析 | 坂上 倫久 | プロテオサイエンスセンター | 1,500,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 白血病性幹細胞を標的とした細胞免 疫遺伝子治療の開発研究 | 朝井 洋晶 | 医学部附属病院 | 1,800,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| バルプロ酸による放射線誘発口腔粘 膜炎軽減作用の検討 | 田中 亮裕 | 医学部附属病院 | 1,100,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 新たな動脈硬化リスクとしてのサルコ ペニア | 越智 雅之 | 大学院医学系研究科 | 900,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| ミエロイド系抑制性細胞制御によるB 型肝炎に対する免疫療法の開発 | 多田 藤政 | 医学部附属病院 | 1,500,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 血管老化におけるレニン・アンジオテ ンシン系とmicroRNAの関連について の検討 | 関 莉娟 | 医学部附属病院 | 1,500,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 悪性胸膜中皮腫細胞と癌間質線維 芽細胞間におけるオステオポンチン の役割 | 三好 誠吾 | 医学部附属病院 | 1,300,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| Cキナーゼ阻害剤で誘導されたヒト免 疫寛容樹状細胞による自己免疫疾患 治療への展開 | 松本 卓也 | 医学部附属病院 | 1,100,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| メラノーマ幹細胞をプロモートする新 たな内皮細胞由来因子の同定 | 白石 研 | 医学部附属病院 | 1,500,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 新規子宮内膜症マーカーの産生メカ ニズムに関する基礎的・臨床的研究 | 鍋田 基生 | 医学部附属病院 | 1,700,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 内耳虚血に対する人工酸素運搬体 投与の臨床応用に向けた研究 | 岡田 昌浩 | 医学部附属病院 | 1,200,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| リジルオキシダーゼ様酵素2の阻害に よる頭頸部扁平上皮がんリンパ節転 移抑制の検討 | 上田 哲平 | 医学部附属病院 | 1,500,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| Pathophysiological investigation of bone cell communications regulated by chemokine network | 李 智媛 | プロテオサイエンスセンター | 1,500,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| メタボローム解析による唾液中の新規 口腔癌診断マーカーの探索 | 岩本 和樹 | 医学部附属病院 | 1,500,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 口腔扁平上皮癌におけるCDCA5の 発現と機能解析 | 徳善 紀彦 | 医学部附属病院 | 1,500,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |
| 経管栄養患者の排便状態を改善する ための半固形化栄養剤による援助方 法の開発 | 小岡 亜希子 | 大学院医学系研究科 | 900,000 | 補 委 | 日本学術振興会 |

計 159

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

| 番号 | 発表者氏名 | 発表者の所属 | 題名 | 雑誌名 |
|----|-------|--------|--|--|
| 1 | 山之内純 | 第一内科 | Severe immune thrombocytopenia secondary to Waldenström's macroglobulinemia with anti-GPIb/IX monoclonal IgM antibody. | Ann Hematol. 93(4):711-2, 2014 |
| 2 | 山之内純 | 第一内科 | Dramatic and prompt efficacy of Helicobacter pylori eradication in the treatment of severe refractory iron deficiency anemia in adults. | Ann Hematol. 93, 1779-1780, 2014. |
| 3 | 山之内純 | 第一内科 | Development of exogenous FVIII-specific inhibitor in a mild haemophilia patient with Glu272Lys mutation. | Haemophilia. 20(2):e179-82, 2014 |
| 4 | 石崎淳 | 第一内科 | Low complements and high titre of anti-Sm antibody as predictors of histopathologically proven silent lupus nephritis without abnormal urinalysis in patients with systemic lupus erythematosus. | Rheumatology (Oxford). 54(3):405-12, 2014 |
| 5 | 谷本一史 | 第一内科 | Genetically engineered fixed K562 cells: potent "off-the-shelf" antigen-presenting cells for generating virus-specific T cells. | Cytotherapy. 16(1):135-46, 2014 |
| 6 | 末盛浩一郎 | 第一内科 | Cutaneous lesions of a blastic plasmacytoid dendritic cell neoplasm. | Intern Med. 53:339-40, 2014 |
| 7 | 越智史博 | 第一内科 | Gene-Modified Human α/β -T Cells Expressing a Chimeric CD16-CD3 ζ Receptor as Adoptively Transferable Effector Cells for Anticancer Monoclonal Antibody Therapy. | Cancer Immunol Res. 2: 249-262 |
| 8 | 朝井洋晶 | 第一内科 | Adoptive transfer of genetically engineered WT1-specific cytotoxic T lymphocytes does not induce renal injury. | Journal of Hematology & Oncology 7:3, 2014. |
| 9 | 藤原弘 | 第一内科 | Adoptive immunotherapy for hematological malignancies using T cells gene-modified to express tumor antigen-specific receptors. Review | Pharmaceuticals(Basel). 7(12): 1049-1068, 2014 |

| | | | | |
|----|-------|------|---|---|
| 10 | 鹿田文昭 | 第一内科 | Analysis of chemotherapy-induced neutropenia and optimal timing for prophylactic use of G-CSF in B-cell non-Hodgkin lymphoma patients treated with R-CHOP. | Int J Clin Oncol. 19, 178-85, 2014. |
| 11 | 加藤亜希 | 第二内科 | Cell Stress Induces Upregulation of Osteopontin via the ERK Pathway in Type II Alveolar Epithelial Cells. | PLoS One 9 : e100 - 106, 2014. |
| 12 | 三好誠吾 | 第二内科 | Combination Therapy with Sivelestat and Recombinant Human Soluble Thrombomodulin for ARDS and DIC Patients. | Drug Design, Development and Therapy 8 : 1211 - 1219, 2014. |
| 13 | 三好誠吾 | 第二内科 | Phase II Trial of S-1 as Third-Line or Further Chemotherapy in Patients with Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer. | International Journal of Clinical Oncology 19:1005-1010, 2014. |
| 14 | 大蔵隆文 | 第二内科 | Kimura's Disease Associated with Membranous Nephropathy with IgG4 and Phospholipase A2 Receptor-positive Staining of the Glomerular Basement Membrane. | Internal Medicine 53 : 1435 - 1440, 2014. |
| 15 | 大蔵隆文 | 第二内科 | Hyperhomocysteinemia is One of the Risk Factors Associated with Cerebrovascular Stiffness in Hypertensive Patients, Especially Elderly Males | Scientific Reports 4 : 5663, 2014. |
| 16 | 飯尾千春子 | 第二内科 | Secundum Atrial Septal Defect Resulting in Hypoxaemia. | European Heart Journal Cardiovascular Imaging 15 : 103, 2014. |
| 17 | 城徳昌典 | 第二内科 | Carotid Hemodynamics is Associated with Monocyte Count Determined by Serum Homocysteine Level in Patients with Essential Hypertension. | Clinical and Experimental Hypertension 1 - 6, 2014[Epub ahead of print] |
| 18 | 大島弘世 | 第二内科 | Possible Role of Angiotensin-Converting Enzyme 2 and Activation of Angiotensin II Type 2 Receptor by Angiotensin-(17) in Improvement of Vascular Remodeling by Angiotensin II Type 1 Receptor Blockade. | Hypertension 63 : e53 - 59, 2014. |
| 19 | 三宅映己 | 第三内科 | Hyperuricemia is a risk factor for the onset of impaired fasting glucose in men with a high plasma glucose level: a community-based study. | PLoS One. 2014; 9: e107882. |

| | | | | |
|----|------|---------|---|---|
| 20 | 有光英治 | 第三内科 | The ligand binding ability of dopamine D1 receptors synthesized using a wheat germ cell-free protein synthesis system with liposomes | Eur J Pharmacol 745:117-122, 2014. |
| 21 | 渡辺崇夫 | 第三内科 | An HBV-HIV co-infected patient treated with tenofovir-based therapy who achieved HBs antigen/antibody seroconversion. | Intern Med. 2014; 53: 1343-1346. |
| 22 | 大野芳敬 | 第三内科 | Signet-ring cell carcinoma of the gallbladder complicated with pulmonary tumor thrombotic microangiopathy. | Intern Med. 2014; 53:1125-1129. |
| 23 | 廣岡昌史 | 第三内科 | Local recurrence of hepatocellular carcinoma in the tumor blood drainage area following radiofrequency ablation. | Mol Clin Oncol. 2014; 2: 182-186. |
| 24 | 越智裕紀 | 第三内科 | 18F-FDG-PET/CT predicts the distribution of microsatellite lesion in hepatocellular carcinoma. | Molecular and Clinical Oncology 2(5):798-804 2014 |
| 25 | 吉田理 | 第三内科 | DAP12 deficiency in liver allografts results in enhanced donor DC migration, augmented effector T cell responses and abrogation of transplant tolerance | Am J Transplant 14:1791-1805, 2014. |
| 26 | 吉田理 | 第三内科 | Plasmacytoid dendritic cell-derived IFN- α promotes murine liver ischemia/reperfusion injury via induction of hepatocyte IRF-1 | Hepatology 60: 267-277, 2014. |
| 27 | 岡田陽子 | 老年・神経内科 | Mechanical Stresses, arterial Stiffness, and Brain Small Vessel Diseases Shimanami Health Promoting Program Study. | Stroke. 45(11):3287-3292, 2014 |
| 28 | 小原克彦 | 老年・神経内科 | Clinical characteristics of high plasma adiponectin and high plasma leptin as risk factors for arterial stiffness and related end-organ damage. | Atherosclerosis. 235(2):424-429, 2014 |
| 29 | 小原克彦 | 老年・神経内科 | Sarcopenic obesity in aging population: current status and future directions for research | Endocrine.45(1):15-25, 2014 |
| 30 | 尾原麻耶 | 老年・神経内科 | Sarcopenic obesity and arterial stiffness, pressure wave reflection and central pulse pressure: J-SHIPP study. | Int J Cardiol. 174(1):214-217, 2014 |
| 31 | 山下泰治 | 老年・神経内科 | Muscle Mass, Visceral Fat, and Plasma Levels of B-Type Natriuretic Peptide in Healthy Individuals(from the J-SHIPP Study) | Am J Cardiol. 114(4):635-640, 2014 |
| 32 | 上谷英里 | 老年・神経内科 | CDH13 Gnotype-Dependent Association of High-Molecular Weight Adiponectin with All-cause Mortality:The J-SHIPP Study | Diabetes care. 37(2):396-401, 2014 |

| | | | | |
|----|-------|-----------|--|--|
| 33 | 伊賀瀬道也 | 老年・神経内科 | Change in arterial stiffness associated with monthly bisphosphonate treatment in women with postmenopausal osteoporosis. | Menopause. 21(9):962-966, 2014 |
| 34 | 野元正弘 | 薬物療法・神経内科 | Transdermal rotigotine in advanced Parkinson's disease: a randomized, double-blind, placebo-controlled trial. | J Neurol 261:1887-1893, 2014. |
| 35 | 堀内史枝 | 精神科 | Effects of adenotonsillectomy on neurocognitive function in pediatric obstructive sleep apnea syndrome, | Case Reports in Psychiatry, Article ID520215, 2014 |
| 36 | 安部賢郎 | 精神科 | Distribution of D-3-aminoisobutyrate-pyruvate aminotransferase in the rat brain. | BMC Neuroscience 15(1):53, 2014 |
| 37 | 越智紳一郎 | 精神科 | The nicotinic cholinergic system is affected in rats with delayed carbon monoxide encephalopathy. | Neuroscience Letters 569 : 33-37, 2014 |
| 38 | 吉野祐太 | 精神科 | Combined Clozapine and Electroconvulsive Therapy in a Japanese Schizophrenia Patient: A Case Report | Clinical Psychopharmacology and Neuroscience 12, 160-162, 2014 |
| 39 | 吉野祐太 | 精神科 | Missense variants of the alanine: glyoxylate aminotransferase 2 gene correlated with carotid atherosclerosis in the Japanese population. | J Biol Regul Homeost Agents 28(4):605-614, 2014 |
| 40 | 吉野祐太 | 精神科 | Missense variants of the alanine:glyoxylate aminotransferase 2 gene are not associated with Japanese schizophrenia patients. | Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry 53: 137-141, 2014 |
| 41 | 森崇明 | 精神科 | Apathy correlates with prefrontal amyloid β deposition in Alzheimer's disease. | J Neurol Neurosurg Psychiatry 85(4):449-455, 2014 |
| 42 | 河邊憲太郎 | 精神科 | The Melatonin Receptor Agonist Ramelteon Effectively Treats Insomnia and Behavioral Symptoms in Autistic Disorder. | Case Reports in Psychiatry, Article ID56107, 2014 |
| 43 | 河邊憲太郎 | 精神科 | A Case of Acute Pancreatitis Associated with Risperidone Treatment. | Clin Psychopharmacol Neurosci. 12(1): 67-8, 2014 |
| 44 | 堀内史枝 | 精神科 | Age-and sex-relate emotional and nbehavioral problems in children with autism spectrum disorders: Comparison with control children | Psychiatry Clin Neurosci68(7):542-550, 2014 |

| | | | | |
|----|------|------------|---|--|
| 45 | 徳田桐子 | 小児科 | CLTC-ALK Fusion as a Primary Event in Congenital Blastic Plasmacytoid Dendritic Cell Neoplasm. | Genes Chromosomes Cancer 53: 78-89 |
| 46 | 福田光成 | 小児科 | Postnatal interleukin-1 β enhances adulthood seizure susceptibility and neuronal cell death after prolonged experimental febrile seizures in infantile rats. | Acta Neurol Belg 114:179-185 |
| 47 | 永井功造 | 小児科 | Pediatric subcutaneous panniculitis-like T-cell lymphoma with favorable result by immunosuppressive therapy: A report of two cases. | Pediatr Hematol Oncol 31; 528-533 |
| 48 | 檜垣高史 | 小児科 | A rare case of double aortic arch suspected by preoperative chest X-ray in a healthy woman. | Br J Anaesthesia 112: 1117-1118 |
| 49 | 菊池聡 | 消化器腫瘍外科 | Minimally invasive necrosectomy using resectoscope for intractable necrotic abscess after severe acute pancreatitis: report of a case | Surgery Today DOI 10.1007/s00595-014-1063-5 |
| 50 | 古賀繁宏 | 消化管腫瘍外科 | In vivo subcellular imaging of tumors in mouse models using a fluorophore-conjugated anti-CEA antibody in TPEM, | Cancer Science, 105(10), 1299-306 (2014) |
| 51 | 高井昭洋 | 肝胆膵・移植外科 | Soft-light overhead illumination system improve laparoscopic task performance. | Surg Laparosc Endosc Percutan Tech 24(1): 50-56 2014 |
| 52 | 鹿田文昭 | 心臓血管・呼吸器外科 | Pathophysiology of lung injury induced by common bile duct ligation in mice. | PLoS One 9(4):e94550, 2014. |
| 53 | 大上史朗 | 脳神経外科 | Surgical results of tumor resection using tractography-integrated navigation-guided fence-post catheter techniques and motor-evoked potentials for preservation of motor function in patients with glioblastomas near the pyramidal tracts. | Neurosurg Rev. 2014 Nov 19. [Epub ahead of print] |
| 54 | 井上明宏 | 脳神経外科 | A case of pediatric atypical prolactinoma: significance of a multidisciplinary treatment approach. | Clin Neurol Neurosurg 124:138-141, 2014 |
| 55 | 井上明宏 | 脳神経外科 | Ethmoidal dural arteriovenous fistula with an usual drainage route treated by transbasal embolization. | J Neurointerv Surg, Epub 2014 Mar 28 |
| 56 | 森実圭 | 整形外科 | A case report: locking because of cyclops syndrome occurring after partial rupture of the anterior cruciate ligament. | J Pediatr Orthopaedics B. 2014 Jan 8. |

| | | | | |
|----|-------|------|--|---|
| 57 | 石丸雅巳 | 整形外科 | A three-dimensional computed tomography study of distal femoral morphology in Japanese patients: Gender differences and component fit | The Knee 21 1221-1224P |
| 58 | 木谷彰岐 | 整形外科 | Overexpression of cytoplasmic β -catenin inhibits the metastasis of the murine osteosarcoma cell line LM8. | Cancer Cell Int. 14(1) |
| 59 | 石丸雅巳 | 整形外科 | Three-Dimensional Motion Analysis of the Patellar Component in Total Knee Arthroplasty by the Image Matching Method Using Image Correlations | JOURNAL OF ORTHOPAEDIC RESEARCH 32(5) 619-26 2014 |
| 60 | 今井浩 | 整形外科 | Anterior Coverage After Rotational Acetabular Osteotomy for the Treatment of Developmental Dysplasia of the Hip | Journal of Orthopaedic Science 19 762-769 2014 |
| 61 | 宮脇さおり | 皮膚科 | Pressure sore-like ulcers on acneiform papules caused by EGFR inhibitors | Int Wound J; 11: 569-570, 2014. |
| 62 | 増田香奈 | 皮膚科 | Case of palmoplantar pustulosis that developed with acute glomerulonephritis | J Dermatol; 42: 111-112, 2014. |
| 63 | 村上正基 | 皮膚科 | Vesicular LL-37 contributes to inflammation of the lesional skin of palmoplantar pustulosis | PLOS ONE; 9: e110677, 2014. |
| 64 | 難波千佳 | 皮膚科 | Infantile generalized pustular psoriasis: Successful disease control with intermittent etretinate | J Dermatology; 41: 403-406, 2014. |
| 65 | 白石敦 | 眼科 | Prevalence of upper- and lower-lid-wiper epitheliopathy in contact lens wearers and non-wearers. | Eye Contact Lens. 40(4)220-4. 2014. |
| 66 | 山口昌彦 | 眼科 | New method for viewing Krehbiel flow by polymethylmethacrylate particles suspended in fluorescein solution. | Acta Ophthalmol. 92(8)e676-80. 2014. |
| 67 | 山口昌彦 | 眼科 | Clinical usefulness of diquafosol for real-world dry eye patients: a prospective, open-label, non-interventional, observational study. | Adv Ther. 31(11)1169-81. 2014. |
| 68 | 小林武史 | 眼科 | Stromal-epithelial interaction study: The effect of corneal epithelial cells on growth factor expression in stromal cells using organotypic culture model. | Experimental Eye Research. (in press) |

| | | | | |
|----|------|-------|---|--|
| 69 | 小林武史 | 眼科 | Miraflow, Soft Contact Lens Cleaner, activity against Acanthamoeba spp.. | Eye & Contact Lens. (in press) |
| 70 | 鄭曉東 | 眼科 | New method for evaluation of early phase tear clearance by anterior segment | Acta Ophthalmol. 92(2):e105-11. 2014. |
| 71 | 井上智之 | 眼科 | Horizontal intracorneal swirling water migration indicative of corneal endothelial function. | Invest Ophthalmol Vis Sci. 55(12):8006-14. 2014. |
| 72 | 原祐子 | 眼科 | Evaluation of allergic conjunctivitis by thermography. | Ophthalmic Res. 51(3):161-6. 2014. |
| 73 | 大橋裕一 | 眼科 | Comparison of in vivo efficacy of different ocular lubricants in dry eye animal models. | Invest Ophthalmol Vis Sci. 55(6) :3454-60, 2014. |
| 74 | 井上英紀 | 眼科 | A case of herpetic keratitis after subconjunctival triamcinolone acetonide njection. | Case Rep Ophthalmol. 5:277-280, 2014. |
| 75 | 高木太郎 | 耳鼻咽喉科 | Intravenous administration of bone marrow mononuclear cells alleviates hearing loss after transient cochlear ischemia through paracrine effects | NeuroReport 25(11):807-813, 2014 |
| 76 | 岡田昌浩 | 耳鼻咽喉科 | Air-bone gap in ears with a well-repaired tympanic membrane after Type III and Type IV tympanoplasty | Auris Nasus Larynx 41:153-159, 2014 |
| 77 | 高木太郎 | 耳鼻咽喉科 | Clinical features, presenting symptoms, and surgical results of congenital cholesteatoma based on Potsic's staging system | Acta Oto-Laryngologica 134:462-467, 2014 |
| 78 | 羽藤直人 | 耳鼻咽喉科 | Use of ambulatory anaesthesia with manually assisted ventilation for tympanic membrane regeneration therapy in children | Am J Otolaryngol. 36(2): 153-7, 2014 |
| 79 | 藤原崇志 | 耳鼻咽喉科 | Diagnostic accuracy of lateral neck radiography in ruling out supraglottitis: a prospective observational study | Emerg Med J. 32(5): 348-52, 2015 |
| 80 | 白馬伸洋 | 耳鼻咽喉科 | Preoperative Factors Affecting Tympanic Membrane Regeneration Therapy Using an Atelocollagen and Basic Fibroblast Growth Factor | JAMA Otolaryngol Head Neck Surg 2014 |
| 81 | 白馬伸洋 | 耳鼻咽喉科 | Gelatin hydrogel with basic fibroblast growth factor for tympanic membrane regeneration | Otol Neurotol 35:540-544, 2014 |

| | | | | |
|----|------|--------|---|---|
| 82 | 川口直人 | 放射線科 | Optimization of Coronary Attenuation in Coronary Computed Tomography Angiography Using Diluted Contrast Material. | Circulation Journal 78 : 662 - 670, 2014. |
| 83 | 宮川正男 | 放射線科 | Positron emission tomography-computed tomography for imaging of inflammatory cardiovascular diseases. | Circ J. 2014; 78(6): 1302-10. |
| 84 | 城戸倫之 | 放射線科 | Adenosine triphosphate stress dual-source computed tomography to identify myocardial ischemia: comparison with invasive coronary angiography. | Springerplus. 2014 Feb 7; 3: 75. |
| 85 | 松田恵 | 放射線科 | Incidence for progression of hypervascular HCC in hypovascular hepatic nodules showing hyperintensity on gadoxetic acid-enhanced hepatobiliary phase in patients with chronic liver diseases. | Jpn J Radiol. 2014 Jul; 32(7): 405-13. |
| 86 | 西山香子 | 放射線科 | Combined Supine and Prone Myocardial Perfusion Single-Photon Emission Computed Tomography With a Cadmium Zinc Telluride Camera for Detection of Coronary Artery Disease. | Circulation Journal 78 : 1169 - 1175, 2014. |
| 87 | 村瀬隆一 | 歯科口腔外科 | Targeting multiple cannabinoid anti-tumour pathways with a resorcinol derivative leads to inhibition of advanced stages of breast cancer. | Br J Pharmacol 171(19):4464-77, 2014 |
| 88 | 藤渕剛次 | 歯科口腔外科 | New endoprosthesis suspension method with polypropylene monofilament knitted mesh after resection of bone tumors in proximal humerus. | J Shoulder Elbow Surg. 24(6) 882-8 2014 |
| 89 | 藤田陽平 | 歯科口腔外科 | Prognostic significance of interleukin-8 and CD163-positive cell-infiltration in tumor tissues in patients with oral squamous cell carcinoma. | PLoS One. 2;9(12):e110378. doi: 10.1371/journal.pone.0110378. eCollection 2014. |
| 90 | 倉田美恵 | 病理部 | Microvasculature of Carotid Atheromatous Plaques: Hemorrhagic Plaques Have Dense Microvessels with Fenestrations to the Arterial Lumen. | Journal of Stroke and Cerebrovascular Disease 23 : 1440 - 1446, 2014. |

計90

(注)1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

| 番号 | 発表者氏名 | 発表者の所属 | 題名 | 雑誌名 |
|----|-------|--------|--|---|
| 1 | 川本龍一 | 第三内科 | Brachial-ankle pulse wave velocity is a predictor of walking distance in community-dwelling adults. | Aging Clin Exp Res. 2014 Jul 19. |
| 2 | 川本龍一 | 第三内科 | Changes in oxidized low-density lipoprotein cholesterol are associated with changes in handgrip strength in Japanese community-dwelling persons. | Endocrine. 48(3): 871-7, 2015 |
| 3 | 川本龍一 | 第三内科 | Effect of weight loss on central systolic blood pressure in elderly community-dwelling persons. | Hypertens Res. 2014; 37: 933-938. |
| 4 | 川本龍一 | 第三内科 | Association between serum bilirubin and estimated glomerular filtration rate among elderly persons. | PLoS One. 2014 Dec 16; 9: e115294. |
| 5 | 川本龍一 | 第三内科 | Mildly elevated serum bilirubin levels are negatively associated with carotid atherosclerosis among elderly persons. | PLoS One. 2014 Dec 5; 9: e114281. |
| 6 | 長谷川均 | 第一内科 | Enzymatic protein digestion using a dissolvable polyacrylamide gel and its application to mass spectrometry-based proteomics. | J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci. 15;967:36-40, 2014 |
| 7 | 羽藤高明 | 第一内科 | Inhibitors of Factor XIII/13 in older patients. | Semin Thromb Hemost. 40(6):704-11, 2014 |
| 8 | 安川正貴 | 第一内科 | The first identification and retrospective study of Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome in Japan. | J Infect Dis. 209(6):816-27, 2014 |
| 9 | 安川正貴 | 第一内科 | Abnormal behaviors and developmental disorder of hippocampus in zinc finger protein 521 (ZFP521) mutant mice. | PLoS One. 27;9(3):e92848, 2014 |
| 10 | 安川正貴 | 第一内科 | Cytotoxic T lymphocyte lysis of HTLV-1 infected cells is limited by weak HBZ protein expression, but non-specifically enhanced on induction of Tax expression. | Retrovirology. 14;11(1):116, 2014 |
| 11 | 谷本一史 | 第一内科 | Ultra-low dose interleukin-2 promotes immune-modulating function of regulatory T cells and natural killer cells in healthy volunteers. | Mol Ther. 22(7):1388-95, 2014. |

| | | | | |
|----|------|---------|---|--|
| 12 | 鈴木淳平 | 第一内科 | Sox5 and c-Maf cooperatively induce Th17 cell differentiation via ROR γ t induction as downstream targets of Stat3. | J Exp Med. 25;211(9):1857-74, 2014 |
| 13 | 鈴木淳平 | 第一内科 | The Menin-Bach2 axis is critical for regulating CD4 T-cell senescence and cytokine homeostasis. | Nat Commun.2;5:3555, 2014 |
| 14 | 檜垣實男 | 第二内科 | The Japanese Society of Hypertension Guidelines for the Management of Hypertension (JSH 2014) | Hypertension Research 37 : 253 - 390, 2014. |
| 15 | 檜垣實男 | 第二内科 | Cardiac Magnetic Resonance Imaging for Assessment of Steroid Therapy in a Patient with Cardiac Sarcoidosis and a Magnetic Resonance-Conditional Pacemaker. | International Journal of Cardiology 176 : e89 - 91, 2014 |
| 16 | 檜垣實男 | 第二内科 | Combinations of Olmesartan and a Calcium Channel Blocker or a Diuretic in Elderly Hypertensive Patients: A Randomized, Controlled Trial. | Journal of Hypertension 32 : 2054 - 2063, 2014. |
| 17 | 日浅陽一 | 消化管腫瘍外科 | Interleukin 28B polymorphism predicts interferon plus ribavirin treatment outcome in patients with hepatitis C virus-related liver cirrhosis A multicenter retrospective study in Japan | Hepato Res 44: 983-992, 2014. |
| 18 | 阿部雅則 | 第三内科 | Recipient hyperbilirubinaemia protects cardiac graft in rat heterotopic heart transplantation | Eur J Cardiothorac Surg 45:481-488, 2014. |
| 19 | 日浅陽一 | 第三内科 | Association between subclinical hypothyroidism and diabetic nephropathy in patients with type 2 diabetes mellitus | Endocrine Journal 61: 1011-1018, 2014. |
| 20 | 日浅陽一 | 第三内科 | Real-time tissue elastography non-invasive evaluation of liver fibrosis in chronic liver disease due to HCV | Hepato-Gastroenterology 61: 2084-2090, 2014. |
| 21 | 日浅陽一 | 第三内科 | Hypophosphatemia in patients with hepatitis B virus infection undergoing long-term adefovir dipivoxil therapy | Hepato Res 44: 1081-1087, 2014. |
| 22 | 日浅陽一 | 第三内科 | Clinical features of adult patients with acute hepatitis B virus infection progressing to chronic infection | Int J Hepatol: 358206, 2014. |
| 23 | 日浅陽一 | 第三内科 | Designing Immune therapy for chronic hepatitis B | J Clin Exp Hepatol 4:241-246, 2014 |

| | | | | |
|----|------|------------|--|--|
| 24 | 日浅陽一 | 第三内科 | Maximum standardized uptake value in 18F-fluoro-2-deoxyglucose positron emission tomography is associated with advanced tumor factors in esophageal cancer | Mol Clin Oncol 2:313-321, 2014 |
| 25 | 日浅陽一 | 第三内科 | Circulating AIM as an indicator of liver damage and hepatocellular carcinoma in humans | PLoS One 9: e109123, 2014. |
| 26 | 日浅陽一 | 第三内科 | New susceptibility and resistance HLA-DP alleles to HBV-related diseases identified by a trans-ethnic association study in Asia | PLoS One 9: e86449, 2014. |
| 27 | 熊木天児 | 第三内科 | Good maternal and fetal outcomes for pregnant women with primary biliary cirrhosis. | Clin Gastroenterol Hepatol. 2014; 12: 1179-1185. |
| 28 | 熊木天児 | 第三内科 | Levels of alkaline phosphatase and bilirubin values are surrogate endpoints of outcome for patients with primary biliary cirrhosis ? an international follow-up study. | Gastroenterology . 2014; 147: 1338-1349. |
| 29 | 熊木天児 | 第三内科 | Optimising risk stratification in primary biliary cirrhosis: AST/platelet ratio index predicts outcome independent of ursodeoxycholic acid response. | J Hepatol. 2014: 60; 1249-1258. |
| 30 | 小原克彦 | 老年・神経内科 | Postprandial hypotension as a risk marker for asymptomatic lacunar infarction. | J Hypertens. 32(5):1084-1090, 2014 |
| 31 | 大澤春彦 | 糖尿病内科・検査医学 | Report of the Committee of Japan Diabetes Society on the Research of Fulminant and Acute-onset Type 1 Diabetes Mellitus. | J Diabetes Investig. 2014 12;5 (1):115-118. |
| 32 | 大澤春彦 | 糖尿病内科・検査医学 | Sleep-related intermittent hypoxemia and glucose intolerance: a community-based study. | Sleep Med. 2014 15(10):1212-1218. |
| 33 | 野元正弘 | 薬物療法・神経内科 | Evaluation of the effect of pregabalin on simulated driving ability using a driving simulator in healthy male volunteers. | International Journal of General Medicine 7:103-108, 2014. |
| 34 | 野元正弘 | 薬物療法・神経内科 | Miho Murata, Masahiro Takeuchi, Masayoshi Takahashi, Takayuki Tomida, on behalf of the Rotigotine Trial Group. Rotigotine vs ropinirole in advanced stage Parkinson's disease: A double-blind study. | Parkinsonism and Related Disorders 20:1388-1393, 2014. |
| 35 | 伊賀淳一 | 精神科 | Successful Treatment of Anorexia Nervosa in a 10-year-old Boy with Risperidone Long-acting Injection. | Clin Psychopharmacol Neurosci 12:65-66, 2014 |

| | | | | |
|----|------|------------|---|--|
| 36 | 伊賀淳一 | 精神科 | Psychiatric symptoms in a patient with isolated adrenocorticotropin deficiency: case report and literature review. | Gen Hosp Psychiatry 36:449.e3-5, 2014 |
| 37 | 伊賀淳一 | 精神科 | Microarray analysis of global gene expression in leukocytes following lithium treatment. | Hum Psychopharmacol 29:190-198, 2014 |
| 38 | 伊賀淳一 | 精神科 | Neuropsychological and psychiatric assessments following bilateral deep brain stimulation of the subthalamic nucleus in Japanese patients with Parkinson's disease. | J Clin Neurosci 21:1595-1598, 2014 |
| 39 | 谷向知 | 精神科 | Multicenter population-based study on the prevalence of early onset dementia in Japan: vascular dementia as its prominent cause. | Psychiatry Clin Neurosci 68(3):216-224, 2014 |
| 40 | 石井榮一 | 小児科 | Long-term follow-up of children with refractory immune thrombocytopenia treated with rituximab. | Int J Hematol 99: 429-436 |
| 41 | 石井榮一 | 小児科 | Ulk1-mediated Atg5-independent macroautophagy mediates elimination of mitochondria from embryonic reticulocytes. | Nature Commun 4; 5: 4004 |
| 42 | 石井榮一 | 小児科 | Prognostic factors of Epstein-Barr virus-associated hemophagocytic lymphohistiocytosis in children: Report of the Japan Histiocytosis Study Group. | Pediatr Blood Cancer 61: 1257-1262 |
| 43 | 田内久道 | 小児科 | Salvage allogeneic stem cell transplantation in patients with pediatric myelodysplastic syndrome and myeloproliferative neoplasms. | Pediatr Blood Cancer. 61:1860-1866. |
| 44 | 檜垣高史 | 小児科 | Circumstances and outcomes of out-of-hospital cardiac arrest in elementary and middle school students in the era of public-access defibrillation: Implications for emergency preparedness in schools. | Circ J 78: 701-707 |
| 45 | 渡部祐司 | 消化器腫瘍外科 | Phase II study of first-line chemotherapy with uracil-tegafur plus oral leucovorin in elderly(?75years)Japanese patients with metastatic colorectal cancer:SGOSG-CR0501 study | Int J Clin Oncol DOI 10.1007/s10147-014-0675-5 |
| 46 | 泉谷裕則 | 心臓血管・呼吸器外科 | The analysis of ascending aortic dilatation in patients with a bicuspid aortic valve using the ratio of the diameters of the ascending and descending aorta. | Journal of cardiothoracic surgery 2014;9:108-112 |

| | | | | |
|----|------|------------|--|--|
| 47 | 泉谷裕則 | 心臓血管・呼吸器外科 | Prospects for using a hemoconcentrator as an alternative hemodialysis method in cardiopulmonary bypass surgeries. | Perfusion. 2014mar;29(2)117-123 |
| 48 | 泉谷裕則 | 心臓血管・呼吸器外科 | Redo cardiac surgery for active prosthetic valve endocarditis associated with hereditary hemorrhagic telangiectasia:report of a case. | Surg Today. 44(12): 2378-8, 2014 |
| 49 | 大西丘倫 | 脳神経外科 | Utility of 3-dimensional ultrasound imaging to evaluate carotid artery stenosis: comparison with magnetic resonance angiography. | J Stroke Cerebrovasc Dis, Epub 2014 Oct 16 |
| 50 | 大西丘倫 | 脳神経外科 | Oct-3/4 promotes tumor angiogenesis through VEGF production in glioblastoma. | Brain Tumor Pathol, Epub 2014 Oct 28 |
| 51 | 大西丘倫 | 脳神経外科学 | Activated microglia in a rat stroke model express NG2 proteoglycan in peri-infarct tissue through the involvement of TGF- β 1. | Glia 62(2):185-198, 2014 |
| 52 | 尾形直則 | 整形外科 | Japanese 2011 nationwide survey on complications from spine surgery. | J Orthop Sci. 20 38-54 2014 |
| 53 | 藤山幹子 | 皮膚科 | Elevated serum thymus and activation-regulated chemokine (TARC/CCL17) relates to reactivation of human herpesvirus 6 in drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms (DRESS)/drug-induced hypersensitivity syndrome(DIHS) | Br J Dermatol; 171: 425-427, 2014. |
| 54 | 佐山浩二 | 皮膚科 | CCL27 is downregulated by interferon gamma via epidermal growth factor receptor in normal human epidermal keratinocytes | J Cell Physiol; 229: 1935-1945, 2014. |
| 55 | 佐山浩二 | 皮膚科 | Clinical pharmacology of the anti-IL-17 receptor antibody brodalumab(KHK4827) in Japanese normal healthy volunteers and Japanese subjects with moderate to severe psoriasis: A randomized, dose-escalation, placebo-controlled study | JDS; 75: 201-204, 2014. |
| 56 | 村上正基 | 皮膚科 | Inflammatory peeling skin syndrome caused by homozygous genomic deletion in the PSORS1 region encompassing the CDSN gene. | Exp Dermatol; 23: 60-63, 2014. |

| | | | | |
|----|------|-----|--|---|
| 57 | 藤山幹子 | 皮膚科 | Differential expression profile of Th1/Th2-associated chemokines characterizes Stevens Johnson syndrome/toxic epidermal necrolysis(SJS/TEN) and drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms (DIHS/DRESS) as distinct entities | Eur J Dermatol; 25: 87-89, 2014. |
| 58 | 藤山幹子 | 皮膚科 | TNF-alpha as a useful predictor of human herpesvirus-6 reactivation and indicator of the disease process in drug-induced hypersensitivity syndrome (DIHS)/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms (DRESS) | J Dermatol Sci; 74: 177-179, 2014. |
| 59 | 大橋裕一 | 眼科 | Various pAQU plasmids possibly contribute to disseminate tetracycline resistance gene tet(M)among marine bacterial community. | Front Microbiol. 5:152. 2014. |
| 60 | 大橋裕一 | 眼科 | Differences between niche cells and limbal stromal cells in maintenance of corneal limbal stem cells. | Invest Ophthalmol Vis Sci. 55(3):1453-62. 2014. |
| 61 | 大橋裕一 | 眼科 | Genotypic analysis of Pseudomonas aeruginosa isolated from ocular infection. | J Infect Chemother. 20(7):407-11. 2014. |
| 62 | 溝上志朗 | 眼科 | Travoprost with sofZia? preservative system lowered intraocular pressure of Japanese normal tension glaucoma with minimal side effects. | Clin Ophthalmol.; 8:347-354, 2014 |
| 63 | 大橋裕一 | 眼科 | Efficacy of epinastine hydrochloride ophthalmic solution in allergic conjunctivitis by conjunctival cedar pollen allergen challenge. | Ann Allergy Asthma Immunol. 113(4) :476-81, 2014. |
| 64 | 大橋裕一 | 眼科 | Evaluation of a new method of irrigation and aspiration for removal of ophthalmic viscoelastic device during cataract surgery in a porcine model. | BMC Ophthalmol. 14:129, 2014. |
| 65 | 大橋裕一 | 眼科 | Fungal keratitis caused by Beauveria bassiana: drug and temperature sensitivity profiles: a case report. | BMC Res Notes. 7:677, 2014. |
| 66 | 大橋裕一 | 眼科 | Necrotizing keratitis caused by acyclovir-resistant herpes simplex virus. | Case Rep Ophthalmol. 5(3) :325-8, 2014. |
| 67 | 大橋裕一 | 眼科 | Genotypic characterization of Staphylococcus aureus isolates from cases of keratitis and healthy conjunctival sacs. | Cornea. 33(1): 72-6, 2014. |

| | | | | |
|----|------|-------|--|---|
| 68 | 大橋裕一 | 眼科 | Pseudomonas aeruginosa MucD protease mediates keratitis by inhibiting neutrophil recruitment and promoting bacterial survival. | Invest Ophthalmol Vis Sci. 55(1): 240-6, 2014. |
| 69 | 大橋裕一 | 眼科 | Ocular penetration and efficacy of levofloxacin using different drug-delivery techniques for the prevention of endophthalmitis in rabbit eyes with posterior capsule rupture. | J Ocul Pharmacol Ther. 30(4):333-9, 2014. |
| 70 | 大橋裕一 | 眼科 | Factors affecting enrollment in a randomized controlled trial for Japanese metastatic breast cancer patients (SELECT BC-FEEL) | Jpn J Clin Oncol. Jul;44(7) :696-701, 2014. |
| 71 | 大橋裕一 | 眼科 | In vitro evaluations of topical agents to treat Acanthamoeba keratitis. | Ophthalmology. 121(10) :2059-65, 2014. |
| 72 | 大橋裕一 | 眼科 | Therapeutic effects of 0.1% tacrolimus eye drops for refractory allergic ocular diseases with proliferative lesion or corneal involvement. | Br J Ophthalmol. 98(8):1023-7, 2014. |
| 73 | 羽藤直人 | 耳鼻咽喉科 | Idiopathic sudden sensorineural hearing loss in Japan | Acta Oto-Laryngologica 134:1158-1163, 2014 |
| 74 | 城戸倫之 | 放射線科 | Three-dimensional Phase-sensitive Inversion Recovery Sequencing in the Evaluation of Left Ventricular Myocardial Scars in Ischemic and Non-ischemic Cardiomyopathy: Comparison to Three-dimensional Inversion Recovery Sequencing. | European Journal of Radiology 83 : 2159 - 2166, 2014. |
| 75 | 倉田聖 | 放射線科 | Prognostic implications of non-culprit plaques in acute coronary syndrome: non-invasive assessment with coronary CT angiography. | Eur Heart J Cardiovasc Imaging. 2014 Nov;15(11):1231-7. |
| 76 | 倉田聖 | 放射線科 | Relative myocardial blood flow by dynamic computed tomographic perfusion imaging predicts hemodynamic significance of coronary stenosis better than absolute blood flow. | Invest Radiol. 2014 Dec;49(12):801-7. |
| 77 | 倉田聖 | 放射線科 | Fractional Flow Reserve Computed from Noninvasive CT Angiography Data: Diagnostic Performance of an On-Site Clinician-operated Computational Fluid Dynamics Algorithm. | Radiology. 2014 Oct 13: 140992. |

| | | | | |
|----|------|------------|---|--|
| 78 | 中島直美 | 放射線科 | Are there high risk subgroups for isolated locoregional failure in patients who had T1/2 breast cancer with one to three positive lymph nodes and received mastectomy without radiotherapy? | Breast Cancer. 2014; 21(2): 177-82. |
| 79 | 宮川正男 | 放射線科 | Recommendations for 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography imaging for cardiac sarcoidosis: Japanese Society of Nuclear Cardiology recommendations. | Ann Nucl Med. 2014 May; 28(4): 393-403. |
| 80 | 望月 | 放射線科 | PREDICT Investigators. Rationale and design of the PREDICT (Plaque Registration and Evaluation Detected In Computed Tomography) registry. | J Cardiovasc Comput Tomogr. 2014 Mar-Apr;8(2):90-6. |
| 81 | 武智健一 | 麻酔科蘇生科 | Eugenol and carvacrol excite first- and second-order trigeminal neurons and enhance their heat-evoked responses | Neuroscience 2014;271:45-55 |
| 82 | 萬家俊博 | 麻酔科蘇生科 | Suppression of peritoneal thickening by histamine in a mouse model of peritoneal scraping | Clin Exp Nephrol published online:06 Sep. 2014. |
| 83 | 村瀬隆一 | 歯科口腔外科 | Cannabidiol inhibits paclitaxel-induced neuropathic pain through 5-HT(1A)receptors without diminishing nervous system function or chemotherapy efficacy. | Br J Pharmacol 171(3):636-45, 2014 |
| 84 | 木村映善 | 医療情報部 | HTML5 Microdata as a semantic container for Medical Information Exchange. | Stud Health Technol Inform. 2014;205:418-22. |
| 85 | 今村健志 | 先端医療創生センター | Wide field intravital imaging by two-photon excitation digital-scanned light-sheet microscopy (2p-DSLM) with a high-pulse energy laser, | Biomedical Optics Express, 5(10), 3311-25 (2014) |
| 86 | 今村健志 | 先端医療創生センター | Live Imaging-Based Model Selection Reveals Periodic Regulation of the Stochastic G1/S Phase Transition in Vertebrate Axial Development, | PLOS Computational Biology, 10(12): e1003957 (2014) |
| 87 | 大嶋佑介 | 先端医療創生センター | Ultrasensitive imaging of Ca ²⁺ dynamics in pancreatic acinar cells of yellowameleon-nano transgenic mice | International Journal of Molecular Sciences, 15(11), 19971-86 (2014) |
| 88 | 大嶋佑介 | 先端医療創生センター | Intravital multiphoton fluorescence imaging and optical manipulation of spinal cord in mice, using a compact fiber laser system | Lasers Surg Med, 46(7), pp563-572 (2014) |

| | | | | |
|----|------|--------------|---|--|
| 89 | 櫃本真幸 | 総合診療サポートセンター | Fasting and non-fasting triglycerides and risk of ischemic cardiovascular disease in Japanese men and women: The Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS), | Atherosclerosis. 237(1): 361-8, 2014 |
| 90 | 増本純也 | 病理部 | Defect of suppression of inflammasome-independent interleukin-8 secretion from SW982 synovial sarcoma cells by familial Mediterranean fever-derived pyrin mutations | Mol Biol Rep 2014;41(1):545-553. |
| 91 | 増本純也 | 病理部 | Serum amyloid A induces NLRP-3-mediated IL-1 β secretion in neutrophils. | PLoS One 2014;9(5):e96703 |
| 92 | 増本純也 | 病理部 | Familial Mediterranean fever: genotype-phenotype correlations in Japanese patients | Medicine (Baltimore) 2014;93(3):158-164 |
| 93 | 北澤荘平 | 病理部 | BOB.1-positive Classical Hodgkin's Lymphoma carries Hypermethylation of Gene Promoter as Molecular Marker of Gene-silencing Memory | Acta Histochem Cytochem, 47 (3), 125-131, 2014. |
| 94 | 北澤荘平 | 病理部 | Diabetic Osteopenia by Decreased β -Catenin Signaling Is Partly Induced by Epigenetic Derepression of sFRP-4 Gene. | PlosOne, 9 (7), e102797, 2014. |
| 95 | 北澤理子 | 病理部 | Renin-Angiotensin System Inhibitors Reduce Serum Asymmetric Dimethylarginine Levels and Oxidative Stress in Normotensive Patients with Chronic Kidney Disease. | Nephron Extra, 4: 18-25, 2014. |
| 96 | 北澤荘平 | 病理部 | Acquisition of MYD88 L265P mutation during treatment of diffuse large B-cell lymphoma of parotid gland.. | Virchows Archiv, 464(1), 121-124, 2014. |
| 97 | 北澤荘平 | 病理部 | Duodenal gastric heterotopia, sporadic or fundic gland polyp-associated, frequently carries β -catenin mutation. | Virchows Archiv, 465 (3), 253-256, 2014. |
| 98 | 北澤荘平 | 病理部 | Gastric adenocarcinoma arising in gastritis cystica profunda presenting with selective loss of KCNE2 expression. | World J Gastroenterol. 2013 Feb 28;19(8):1314-7, 2014. |
| 99 | 大島幹弘 | 薬剤部 | Identification of anti-CD98 antibody mimotopes for inducing antibodies with antitumor activity by mimotope immunization. | Cancer Sci., 105, 396-401, 2014. |

| | | | | |
|-----|------|-----|---|--|
| 100 | 渡邊真一 | 薬剤部 | Assessment of the hamster cheek pouch as a model for radiation-induced oral mucositis, and evaluation of the protective effects of keratinocyte growth factor using this model. | Int J Radiat Biol. 90(10), 884-891, 2014 |
|-----|------|-----|---|--|

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

| | |
|--|-------|
| ① 倫理審査委員会の設置状況 | 有 ・ 無 |
| ② 倫理審査委員会の手順書の整備状況 | 有 ・ 無 |
| ・ 手順書の主な内容 ○ ヒトを対象とする医学研究に関する倫理指針 ○ 医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令 (GCP) | |
| ③ 倫理審査委員会の開催状況 | 年12回 |

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

| | |
|---------------------------------------|-------|
| ① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況 | 有 ・ 無 |
| ② 利益相反の管理に関する規定の整備状況 | 有 ・ 無 |
| ・ 規定の主な内容 利益相反管理規定・ポリシー・自己申告書 | |
| ③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況 | 年15回 |

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

| | |
|--|-----|
| ① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況 | 年4回 |
| ・ 研修の主な内容 ヒトを対象とする医学研究に関する倫理指針・GCP・生物統計学・データマネジメント等について | |

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

■内科（【】サブスペシャリティ領域）

第一内科（血液、膠原病・リウマチ、感染症内科）【内科・感染症、膠原病・リウマチ、血液、感染症・アレルギー、腫瘍内科、血液・造血細胞移植】

第一内科の専門領域は、血液、膠原病・リウマチ、感染症である。カンファレンスやセミナーを頻回に開催し、内科学会総合内科専門医、血液学会専門医、リウマチ学会専門医、感染症学会専門医を取得できるように、研修・指導を行っている。また、最近社会的ニーズが非常に高い臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医の育成にも努力している。

第二内科（循環器、呼吸器、腎臓・高血圧内科）【循環器・呼吸器・腎臓】

当科に所属する日本内科学会総合内科専門医、日本循環学会専門医、日本呼吸器学会専門医、日本腎臓専門医、日本老年病専門医、日本臨床遺伝専門医、日本アレルギー学会専門医、日本不整脈学会専門医、日本高血圧学会専門医が血管機能解析、腎生検、血液浄化療法、肺癌化学療法、経気管支鏡的肺生検・吸引針生検、冠動脈形成術、心臓再同期療法、心筋焼灼療法等の高度医療を指導し、専門医の育成を行った。

第三内科（消化器・内分泌・代謝内科）【消化器病・内分泌代謝科・肝臓】

この領域は、第三内科が研修を担当する。消化器病として、消化管および、肝・胆・膵などの領域、内分泌領域、また糖尿病をはじめ糖代謝、脂質代謝、金属代謝などの代謝内科、そして栄養学の研修を指導した。研修では各々の領域の患者に対して先端的な診療、検査に触れるとともに、カンファレンスを通して理解を深め、目標をもち意欲的に研修、習得する医師の養成を目指している。当科のスタッフは、日本内科学会指導医、日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本肝臓学会指導医、日本超音波医学会指導医、日本糖尿病学会指導医、日本内分泌学会指導医、日本アレルギー学会指導医、日本病態栄養学会専門医、NST稼働施設責任者の資格を有しており、各領域の専門研修による専門医の育成とともに、内科を幅広く柔軟に診療できる内科医の育成を目指して研修・指導を行っている。

糖尿病内科・臨床検査医学【糖尿病】

糖尿病専門医・指導医、内科専門医・指導医による専門的かつ総合的な研修を実施した。具体的には、1型糖尿病の診断・管理、急性代謝異常の診断・管理、2型糖尿病の診断・管理、その他特定の型（2次性）糖尿病の診断・管理、糖尿病合併妊娠及び妊娠糖尿病の診断・管理、周術期の血糖管理、持続皮下インスリン注入療法（CSII）を用いた血糖管理、持続血糖測定（CGM）を用いた血糖管理、ならびに糖尿病合併症の診断・治療・管理・予防教育を行った。

薬物療法・神経内科（薬物療法内科、神経内科）【神経内科】

脳神経疾患の診断・治療・教育研修とともに、特に難治性神経疾患の治療薬の研究・開発・研修を行った。また、臨床研究に必要な手法の研究開発と基盤整備、および法務上必要な研修、指導を行った。研修後に総合内科専門医、神経内科専門医、認知症専門医、頭痛専門医、臨床薬理専門医を取得している。

老年・神経内科（老年内科、神経内科）【老年病・神経内科】

神経内科、老年病、脳卒中、認知症などの専門医による神経疾患、脳卒中、認知症などの総合的な研修を実施する。入院診療は、自己免疫性神経疾患や変性疾患などの神経難病が主体であり、神経学的所見の取り方や専門的検査手技や解析手法を指導する。神経内科の特殊検査として、筋電図、末梢神経伝導検査、脳波、中枢神経の運動・感覚誘発電位、頸部血管エコー、経頭蓋ドップラーエコー、経食道心エコーなどを学ぶ。認知症など高齢者診療では、診断・薬物治療だけでなく、介護保険の利用法や生活指導なども学ぶ。

■外科（【】サブスペシャリティ領域）

肝胆膵・移植外科（肝臓、胆のう、膵臓、乳腺、移植外科）【消化器外科】

肝臓、胆のう、膵臓疾患について、画像診断から治療方針の決定、外科治療など消化器外科専門医並びに消化器病専門医及び肝胆膵外科高度専門医を取得できるように、研修、指導を行った。

心臓血管・呼吸器外科（心臓血管、呼吸器外科）【心臓血管外科・呼吸器外科】

- 1 心臓血管外科におきましては、外科専門医、心臓血管外科専門医の資格の取得に必要な、経験、技術、知識、人間性を習得することを目標としています。将来、専門医として社会貢献できる医師を目指す研修を行った。
- 2 呼吸器外科におきましては、外科専門医、呼吸器外科専門医の取得が可能です。呼吸器外科疾患の適切な診断能力と治療方針はもちろん、呼吸器センターの一員として、あらゆる状況において応用可能な能力を身につける研修を行った。

消化管・腫瘍外科（消化管、腫瘍外科）【消化器外科・小児外科】

手術を中心に外科専門医習得のための臨床研修を行うとともに、学会発表や論文作成等を含めた臨床研修を行う。

■内科・外科以外

【精神科】

大学病院および連携病院においての研修を行う。後期研修以降は、それぞれのサブスペシャリティを決定し、それぞれの分野での研鑽を行うと同時に、基本的形成的精神科医としての知識をつけるために、

1. 小児思春期、青年期、老年期のそれぞれの年代の症例および症状性を含む器質性、機能的、反応性精神障害すべての臨床経験を獲得するように主治医として関わること。
2. 臨床研究として、症例報告を含め学会参加や発表を行うこと。
3. 教室内外の勉強会には参加すること。
4. クロザピン、修正型電気けいれん療法など、難治性精神疾患の対応について知り、光トポグラフィによる診断について学ぶことを義務としている。

なお、臨床経験5年後には精神保健指定医の取得、また、日本精神神経学会専門医の獲得を推奨している。

【小児科】

後期研修1年目より小児科専門医の取得を目指し、さらに小児科各分野の高度医療の研修を行った。特に小児科全般の2次医療、3次医療を研修し、高度医療に関わる分野で診断から治療までを行えるようにした。具体的には血液・腫瘍分野では造血幹細胞移植を含めた難治性疾患の治療、循環器分野では複雑心奇形の管理およびカテーテル治療、新生児分野では極小未熟児のトータルケアや合併奇形児の管理、神経分野では難治性けいれんの治療管理、などの研修を行った。また研修期間中にはこれらの患児の予防接種、検診などの予防医学の研修も合わせて行った。

【産婦人科】 【周産期医学分野、婦人科腫瘍分野、生殖内分泌分野】

日本産科婦人科学会専門医指導のもと、産科・婦人科・不妊内分泌領域において、患者を担当する主治医の一員として診断・治療に携わる。産科婦人科研修ガイドラインに従って、臨床に必要な基本知識・産科婦人科疾患の診断・治療・技術を以下の項目を目標に修得する。

1. 周産期医学：胎児の推定体重測定、胎児の血流測定などを含めた超音波検査手技を修得する。分娩管理について理解し、指導医のもと内診にて分娩進行を把握し、分娩介助および帝王切開の手技について修得する。

2. 婦人科腫瘍学：婦人科疾患における超音波検査・CT・MRIなどの画像診断の読影・診断を行い、内診による腫瘍の評価および進展度を推測する。婦人科手術手技を理解し、基本的手技の習得、周術期の管理を行う。

生殖・内分泌学：人工授精・体外受精における治療の手順と基本手技について理解する。受精卵を管理し胚移植の手技について理解する。

【脳神経外科】

日本脳神経外科学会研修プログラムに則って、研修指導医の下で脳神経外科一般の診断と治療に必要な知識と基本的技術を習得させると共に、脳神経外科の先端的センターとしての脳卒中センター、脊椎センター、手術手技研修センターにおいて、それぞれ脳卒中の急性期治療の実践、とりわけ脳血管内治療の基本的操作、脊椎・脊髄疾患の診療、手術に必要な脳神経微小解剖のトレーニングに従事させている。脳腫瘍、脳血管障害、脊椎・脊髄疾患の主要疾患の他に、小児水頭症・奇形、機能外科、感染症と多様な脳神経外科疾患全てを1年間で研修が可能であり、脳神経外科専門医取得に当たって十分な臨床経験を積める環境を整えている。

【耳鼻咽喉科】

日本耳鼻咽喉科学会の研修施設認定を受けており、耳鼻咽喉科学ならびにその関連領域における医学の進歩に応じて、耳鼻咽喉科医の知識と医療技術を高め、すぐれた耳鼻咽喉科医の養成を図った。研修プログラムには、耳、鼻・副鼻腔、口腔咽喉頭、頭頸部の各領域における十分な専門性を有する指導医をおき、年間500例以上の手術症例を中心に研修を行った。人工内耳などの最先端耳鼻咽喉科医療の指導体制も充実している。

【眼科】

高度な医療技術、特に難易度の高い手術のための知識やその実行には、頭頸部のより高度な解剖学的知識が要求されるため、御遺体を用いて以下の涙道手術手技研修を行った。

1. 肉眼および顕微鏡下に手術手技研修を行うことで、眼窩および涙道手術に必要な手技の熟練と開発を行った。
2. 新たな手術法や手術器具の開発を行った。具体的には、再建が困難である涙小管閉塞に対する涙嚢側からのアプローチを行うため、解剖学的な位置関係から涙小管再建に適切な体位、手術器具の選定を行った。
3. 学内のみならず、愛媛県内外の眼科医等にも教育を行った。

【泌尿器科】

副腎、尿路、男性生殖器の診断、治療に関する研修を行います。極力平等に、かつ効率的に泌尿器科医としての研修を受け、10年間の研修を修了すれば、泌尿器科医として独り立ちできるように県下基幹病院と協力して独自の研修システムを整備しています。その中で当科では、腎や副腎、膀胱などの鏡視下手術、ロボットを用いた前立腺手術、各種開腹手術、尿路結石や膀胱癌に対するの内視鏡的手術、婦人科泌尿器科手術、慢性腎不全に導入から腎移植までの研修を行った。また、尿路上皮癌や前立腺癌に対する抗癌化学療法や放射線治療などは、全国的にもリーダー的存在で、専門性の高い研修を行った。

【皮膚科】

皮膚科学会、形成外科学会の研修施設認定を受けています。

皮膚科では湿疹や感染症などの日常的疾患から、皮膚がん、自己免疫性疾患、重症薬疹、先天性疾患などの希少疾患までを対象とした総括的かつ専門性の高い研修を行っています。必要研修期間終了時には専門医の取得が可能です。

【形成外科】

形成外科では小児の先天性疾患からマイクロサージャリーによる再建手術まで、広範囲かつ高度な専

門的な技術を習得できる研修を行っています。いずれも必要研修期間終了時には専門医の取得が可能であり、その後さらに皮膚腫瘍外科専門医、レーザー専門医、頭蓋顎顔面外科専門医などの取得も可能です。

【整形外科】

運動器疾患全般に関して、科学的知識と高い社会的倫理観に備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を身につける研修を行った。

1. 高齢者のQOLを支える医療
2. エビデンスに基づく幅広い治療方針
3. 水準の高い治療で早期の社会復帰をサポート

また、整形外科専門医取得に必要な臨床症例教育、論文・学会研究発表の指導も行っている。

【リハビリテーション科】

日本リハビリテーション医学会専門医の指導の下、以下の項目を目標とした教育プログラムを行った。

- 1 診断学：リハビリテーションを行う上で必要な、各種画像検査・電気生理学的検査・病理診断・超音波検査などを、評価・施行できる。運動障害や高次脳機能障害だけでなく、嚥下障害、心肺機能障害、排泄障害の評価といった、関連領域も評価ができる。
- 2 治療：全身状態の管理ができる。障害評価に基づく治療計画が立てられる。各種リハビリテーション（理学療法・作業療法など）に加え、義肢装具の処方・ブロック療法・薬物治療・生活指導などができる。

【放射線科】

1. 診断専門医は、画像診断（X線、CT、MRI、超音波等）、核医学、インターベンションラジオロジー（IVR）の専門的知識と診療技術を習得し、この知識と技術に基づいた検査の選択・指示・実施・管理等が出来るようにする研修を行った。
2. 放射線治療専門医は、悪性腫瘍および一部の良性疾患に関して、放射線治療の効果、照射術式とその計画、有害事象、治療前中後の管理などについての専門知識と診療技術を駆使した適正な放射線治療が行えるようにする研修を行った。
- 3.

【麻酔科蘇生科】

臨床の現場において、手術における全身麻酔や区域麻酔、集中治療管理、痛みの治療の研修指導を行い、さらに下記の研修を通してより高度な医療技術を身につけるよう指導した。

1. 高機能シミュレータを用いた全身麻酔手技の習得
2. 危機的状況を想定したシナリオトレーニング
3. 献体を用いた気道確保法と区域麻酔法研修
4. 緩和ケア医療の研修

【歯科口腔外科】

外来における初診患者の問診、初診診察、診断、治療の口腔外科疾患一連の流れ、および手術手技難易度分類の中等度までにおける外来外科処置の執刀および術後の follow を行った。また、病棟においては入院から退院までの口腔癌、顎変形症、炎症、外傷、嚢胞性疾患患者等の患者管理および中等度相当までの執刀を指導医の元、経験した。臨床外に関しては、口腔外科関連論文の抄読会を担当し、学術的理解にも励んだ。

【救急科】

診療：3次救急医療とそれに伴う高度な循環・呼吸管理、感染対策、栄養管理など広範な領域をカバーする。また、災害医療や緊急被曝医療、ドクターカー利用による院外救急医療も展開している。さらに、院内救急にも対応し、Rapid Response Systemを立ち上げ院内心停止防止に寄

与している。

専門医教育：当科に所属する日本救急医学会専門医、同指導医、日本外科学会専門医、日本集中治療専門医などが、研修医や医員の教育・育成にあっている。日本救急医学会専門医認定施設であり、かつ愛媛県内唯一の日本救急医学会指導医認定施設でもある。

研修会開催：ICLS研修年4回程度主催。MCLS研修会主催。JATEC共催。厚生労働省平成24年から26年度実践的な手術手技向上研修事業、愛媛大学救急医学「献体による外傷手術手技研究会。

【病理診断科】

病理専門医は、病理学総論と諸臓器の疾患に関する病理学的知見に基づいて、医療の根幹となる病理診断（病理解剖、手術標本、生検、細胞診）を行い、臨床医との相互討論を通じて医療の質を担保し、高度先進医療、地域医療の推進に寄与する。本院では、「患者に学び患者に還元する医療」の姿勢で、医療倫理、医療安全を実践し、社会的ニーズに対応できる病理専門医を育成する。病理専門医研修では、日本病理学会の「専門医研修手帳」に記された基準を満たすように、知識・技能・態度について指導を行う。病理解剖については視聴覚教材とマンツーマン指導による手技の修得、肉眼所見と病理標本検鏡、APCにて病態を重視した診断報告書を作成し、全症例のCPCを行う。手術標本、生検診断、細胞診については、業務マニュアルによる手技や報告書作成を標準化と、指導医による全例検閲を行う。臨床科との症例検討会での発表、愛媛県病理検討会、中四国支部会、病理学会総会などで症例報告を行う。病理学講座との連携のもとに、分子病理学的研究手法についても研鑽を積むことが出来る。病理診断学の修練のみならず専門医修得後のキャリア形成にも留意し、後進の指導にあたる人材育成をめざす。

2 研修の実績

| | |
|--------|------|
| 研修医の人数 | 139人 |
|--------|------|

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

| 研修統括者氏名 | 診療科 | 役職等 | 臨床経験年数 | 特記事項 |
|---------|----------------|----------------|--------|-------------------|
| 安川 正貴 | 第一内科 | 教授 | 38年 | 内科・感染症 |
| 長谷川 均 | 第一内科 | 特任教授、診療科長 | 36年 | 膠原病・リウマチ |
| 羽藤 高明 | 輸血・細胞治療部 | 特任教授、輸血・細胞治療部長 | 35年 | 血液 |
| 高田 清式 | 総合臨床研修センター | 教授 | 34年 | 感染症・アレルギー |
| 薬師神 芳洋 | 腫瘍センター | 教授、腫瘍センター長 | 27年 | 腫瘍内科 |
| 東 太地 | 造血細胞移植センター | 講師、造血細胞移植センター長 | 21年 | 血液・造血細胞移植 |
| 大蔵 隆文 | 腎臓内科 | 特任教授 | 29年 | |
| 伊東 亮治 | 呼吸器内科 | 准教授 | 21年 | |
| 大木元明義 | 循環器内科 | 准教授 | 20年 | |
| 日浅 陽一 | 第三内科 | 教授 | 25年 | 消化器・内分泌・代謝内科学 |
| 大澤 春彦 | 糖尿病内科 | 教授 | 27年 | 糖尿病内科 |
| 野元 正弘 | 薬物療法・神経内科 | 教授 | 38年 | 神経内科 |
| 大八木 保政 | 老年・神経内科 | 教授 | 30年 | 神経内科・老年病 |
| 高田 泰次 | 肝臓・胆のう・膵臓・移植外科 | 教授 | 32年 | 消化器外科 肝胆膵・移植外科 |

| | | | | |
|-------|------------|------|-----|------------|
| 泉谷 裕則 | 心臓血管・呼吸器外科 | 教授 | 27年 | 心臓血管外科 |
| 佐野 由文 | 心臓血管・呼吸器外科 | 准教授 | 30年 | 呼吸器外科 |
| 渡部 祐司 | 消化器外科 | 教授 | 32年 | |
| 山田 耕治 | 小児外科 | 准教授 | 28年 | |
| 上野 修一 | 精神科 | 教授 | 30年 | 精神科 |
| 石井 榮一 | 小児科 | 教授 | 36年 | 小児科 |
| 杉山 隆 | 産婦人科 | 教授 | 28年 | |
| 松原 圭一 | 産婦人科 | 准教授 | 28年 | 周産期医学分野 |
| 藤岡 徹 | 産婦人科 | 准教授 | 24年 | 婦人科腫瘍分野 |
| 松元 隆 | 産婦人科 | 特任講師 | 29年 | 婦人科腫瘍分野 |
| 小泉 雅江 | 産婦人科 | 助教 | 12年 | 生殖内分泌分野 |
| 大西 丘倫 | 脳神経外科 | 教授 | 37年 | 脳神経外科 |
| 羽藤 直人 | 耳鼻咽喉科 | 教授 | 27年 | 耳鼻咽喉科 |
| 白石 敦 | 眼科 | 准教授 | 29年 | |
| 菊川 忠彦 | 泌尿器科 | 准教授 | 20年 | 泌尿器科 |
| 佐山 浩二 | 皮膚科 | 教授 | 31年 | |
| 中岡 啓喜 | 形成外科 | 准教授 | 31年 | |
| 三浦 裕正 | 整形外科 | 教授 | 32年 | 整形外科 |
| 尾形 直則 | 整形外科 | 准教授 | 27年 | リハビリテーション科 |
| 望月 輝一 | 放射線科 | 教授 | 35年 | |
| 萬家 俊博 | 麻酔科蘇生科 | 教授 | 31年 | |
| 浜川 裕之 | 歯科口腔外科 | 教授 | 37年 | 歯科口腔外科 |
| 相引 眞幸 | 救急科 | 教授 | 37年 | |
| 竹葉 淳 | 救急科 | 講師 | 19年 | |
| 馬越 健介 | 救急科 | 助教 | 13年 | |
| 松本 紘典 | 救急科 | 助教 | 11年 | |
| 北澤 理子 | 病理診断科 | 病理部長 | 20年 | |

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

放射線部

・研修の主な内容

- ①高度放射線治療の為の技術的研修（医学物理学研修）
- ②マンモグラフィー認定技師講習及び認定技師免許取得及び更新の為の試験
- ③IVR認定技師講習会および試験
- ④経験5年以上の診療放射線技師を対象に大学病院の職員として必要な知識を習得し資質の向上を図ると共に、教育研究・診療の社会的使命を担う自覚と向上心を培い、職種を超えた全病院的な研修テーマの討議により、チーム医療・組織課題について意識向上を図る

・研修の期間・実施回数

- ①一回1～2日 予定2回（7月、9月）
- ②一回1～2日 予定2回（8月、11月）
- ③一回1～2日 予定1回（9月）
- ④一回5日間 予定1回（10月）（後援 文部科学省）

・研修の参加人数

- ①放射線治療担当技師2名
- ②女性診療放射線技師4名
- ③血管造影担当放射線技師1名
- ④経験5年以上の診療放射線技師1名

看護部

・研修の主な内容

- ①フィジカルイグザミネーションの基礎

②救急蘇生法

③フィジカルイグザミネーション

④フィジカルイグザミネーション

⑤フィジカルアセスメント

⑥がんの診断期からの基本的緩和ケア

⑦皮膚排泄ケア看護

⑧がん看護

・研修の期間・実施回数

①5月13日、14日②6月10日、11日

③5月20日、21日、28日

④6月12日、19日

⑤7月24日、31日

⑥5月28日

⑦6月15日

⑧7月30日

・研修の参加人数

①新人看護職対象 2日間で計59名

②新人看護職対象 2日間で計61名

③二年目看護職対象 3日間で計76名

④中堅看護職対象 2日間で計40名

⑤中堅看護職対象 2日間で計50名

⑥全看護職対象 52名

⑦全看護職対象 73名

⑧全看護職対象 28名

| |
|---|
| |
| ② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意） |
| <p>薬剤部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容 各科で難渋する症例検討とレジメン審査（カンサーボード） ・研修の期間・実施回数 1時間・12回 ・研修の参加人数 151名（延） <p>放射線部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容 ①3年目までの新人診療放射線技師長を対象に、教育、医療安全、法令に関して研修する ・研修の期間・実施回数 ①1回（6月名古屋大学にて開催） ・研修の参加人数 ①1名 |
| ③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数 |

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

| | |
|---------|---|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 ② 現状 |
| 管理責任者氏名 | 病院長 三浦 裕正 |
| 管理担当者氏名 | 放射線部長 望月 輝一、ME機器センター長 泉谷 裕則、薬剤部 荒木博陽、医療情報部長 石原 謙、看護部長 田淵 典子、総務課長 菅波 悦朗、人事労務課長 武智 和康、医事課長 齋藤 英雄、医療サービス課長 戒能 直樹、経営管理課長 小玉 明彦、研究協力課長 城戸 兼洋 |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|--|---|--|---|
| 診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 | | 各診療科 薬剤部 看護部 放射線部 医療情報部 医事課 | エックス線写真は集中管理 (放射線部) カルテは医療情報部で一括保管 (1患者1カルテ) |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 従業者数を明らかにする帳簿 | 人事労務課 | |
| | 高度の医療の提供の実績 | 医事課 | |
| | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 研究協力課 | |
| | 高度の医療の研修の実績 | 人事労務課 | |
| | 閲覧実績 | 総務課 | |
| | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 医事課 | |
| | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 医事課 薬剤部 | |
| 第規一則号第一に掲げる十の確項及び第九の二十第一項 | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 医療サービス課 | |
| | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 医療サービス課 | |
| | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 医療サービス課 | |
| | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための状況 | 医療サービス課 | |
| | 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | 医療サービス課 | |
| | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 医療サービス課 | |
| | 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | 医療サービス課 | |
| 当該病院内に患者からの安全管理に係る相 | 医療サービス課 | | |

| | | | |
|--|-----------------|--|--|
| | 談に適切に応じる体制の確保状況 | | |
|--|-----------------|--|--|

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|---|--|---|----------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況 | 院内感染のための指針の策定状況 | 医療サービス課 |
| | | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 医療サービス課 |
| | | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 医療サービス課 |
| | | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 医療サービス課 |
| | | 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | 薬剤部 |
| | | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | ME機器センター |
| | | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | ME機器センター |
| | | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | ME機器センター |
| 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | ME機器センター | | |

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | | | |
|--|-------------|-------|--|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 | ②. 現状 | |
| 閲覧責任者氏名 | 藤田 義和 | | |
| 閲覧担当者氏名 | 藤田 義和 | | |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 医学部管理棟3階事務室 | | |
| 閲覧の手続の概要 開示請求者は、国立大学法人愛媛大学情報公開取扱規程に基づき、「法人文書開示請求書」を提出し、承認の決定後、「開示の実施方法の申出書」に基づき閲覧してもらう。 | | | |

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | | |
|-----------|--------|---|----|
| 前年度の総閲覧件数 | | 延 | 0件 |
| 閲覧者別 | 医師 | 延 | 0件 |
| | 歯科医師 | 延 | 0件 |
| | 国 | 延 | 0件 |
| | 地方公共団体 | 延 | 0件 |

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

| | |
|--|------|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 有・無 |
| ・ 指針の主な内容： ①患者中心の医療の実践 ②チーム医療の実践、 ③医療安全に関する組織的取り組み ④インシデントの報告と情報の共有 ⑤機能する医療事故防止対策 ⑥適切な医療事故への対応 ⑦患者相談の実施、指針等の閲覧 ⑧医療安全教育・研修、啓発 ⑨医療安全管理マニュアルの作成・更新 | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 年13回 |
| ・ 活動の主な内容： ①医療に係る安全管理のための指針の策定及び変更に関する事。こと。 ②医療事故防止対策の検討及び研究に関する事。こと。 ③インシデントの分析及び再発防止策の検討に関する事。こと。 ④医療事故防止のための啓発、教育及び研修に関する事。こと。 ⑤医療事故に対する対応策の策定に関する事。こと。 ⑥患者及び家族等の被害者への対応に関する事。こと。 ⑦関係公的機関への報告に関する事。こと。 ⑧報道に関する事。こと。 ⑨その他、医療の安全管理及び医療事故対策に関する事。こと。 | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年 3回 |
| ・ 研修の主な内容： (平成26年度) 平成26年9月28日 第1回 医療安全に関する講演会 テーマ「安全対策の落とし穴～その仕掛けと仕組み」 平成26年12月9日 第2回 医療安全に関する講演会 テーマ「院内暴言暴力対応及び受傷事故防止訓練」 平成27年1月9日 第3回 医療安全に関する講演会 テーマ「Team STEPPS」 (平成27年度) 平成27年7月13日 第1回 医療安全に関する講演会 テーマ「診療関連死と院内事故調査 ～大学病院における取組の実際、新制度への準備と課題～」 平成27年10月2日 第2回 医療安全に関する講演会 テーマ「医療安全推進について」 平成28年1月22日 第3回 医療安全に関する講演会 テーマ「ヒューマンエラーの視点からみえた病院システムのトラブル」 | |
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | |
| ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○インシデントが発生した場合、当事者又は関与者、発見者がインシデントレポート報告を | |

| | |
|---|--------------|
| <p>行うが、報告者は、インシデントレポート入力時に、事例発生原因の分析、患者影響レベル評価、再発防止策を検討して報告をする。</p> <p>○報告されたインシデントレポートは、GRMが毎日全ての事例に目を通し、発生原因分析の確認、影響レベル判定の確認、再発防止策の確認を行い、報告者が記載した分析、対策について再度分析しコメントを記載する。</p> <p>○コメントが記載されたインシデントレポートは、看護部に回覧し、看護部のリスクマネージャーが更にレポートにコメントを記載し、各報告部署に戻される。</p> <p>○GRMは病棟に出向き、記載されたインシデント事例の事実確認、不足情報を収集すると共に、部署のリスクマネージャーに報告事例の分析不足、再発防止対策不足について助言するとともに病棟管理者としての事例の分析、再発防止策について意見交換及び指導をする。</p> <p>○重大な事例は部署がRCA分析を行うように指導する。</p> <p>○患者影響レベルの評価が難しいインシデント事例が報告された場合、緊急を要する事例はGRMが医療安全管理部職員と院内メール等で意見交換を行い患者影響レベルを判定する。</p> <p>○報告されたインシデントレポートの中から、GRMが患者影響レベル3b以上の重大な事例、影響レベルの判断が難しい事例、警鐘的な事例を取り上げ、インシデント検討会議でインシデントの分析、改善策の決定・立案、影響レベルの判定を行い、事例の検討を行っている。</p> <p>○インシデント検討会議で検討された事例は、医療安全管理委員会で報告され、情報の共有と原因分析、再発防止対策の検討を行っている。</p> <p>○医療安全管理委員会で検討された事例内容は、リスクマネージャー会議で報告され、情報を共有するとともに、意見交換を行い、改善策の実施をすすめている。</p> <p>○リスクマネージャーは、医療安全管理委員会で検討された事例を、各部署の全体会議で報告し、部署の職員と事例を共有すると共に、再発防止策の推進を行っている。</p> | |
| ⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 | 有 (4名) ・ 無 |
| ⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 有 (5名) ・ 無 |
| ⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 | 有 ・ 無 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (2 3) 名 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> ①報告のあったインシデントのモニタリング、分析及び影響レベルの判定に関すること。 ②インシデント審議委員会及びインシデント調査委員会に関すること。 ③インシデントごとの解決策及び再発防止策の企画・立案に関すること。 ④医療安全体制システム及びマニュアルの見直しに関すること。 ⑤医療安全管理委員会等で決定した事項についての周知の確認及びそれに必要な指導に関すること。 ⑥安全管理に関する教育・研修等の実施に関すること。 ⑦医療安全管理委員会の資料及び議事録の作成・保存等の運営に関すること。 ⑧事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び必要な指導に関すること。 ⑨患者や家族への説明など事故発生時の対応状況についての確認及び必要な指導に関すること。 ⑩事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認及び必要な指導に関すること。 ⑪他の委員会、患者相談窓口等他部門及びリスクマネージャー等との連絡調整に関すること。 ⑫医療事故防止等に係る情報提供に関すること。 ⑬その他医療の質の向上及び安全管理に関すること。 | |
| ⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 有 ・ 無 |

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|--------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | 有・無 |
| ・ 指針の主な内容： ①院内感染対策に関する基本的な考え方 ②院内感染対策のための委員会その他の院内の組織に関する基本的事項 ③院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 ④感染症の発生状況の報告に関する基本方針 ⑤院内感染発生時の対応に関する基本方針 ⑥患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ⑦その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針 | |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 年 12 回 |
| ・ 活動の主な内容： ①院内感染の調査、予防対策に関すること。 ②院内感染防止の実施、監視及び指導に関すること。 ③院内感染発生時の措置に関すること。 ④職員の院内感染の教育に関すること。 ⑤その他院内感染防止に関すること。 | |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 年 3 回 |
| ・ 研修の主な内容： 平成26年度 第1回 感染制御部からお伝えしたい5つのこと (平成26年6月30日, 7月1日, 2日, 3日, 4日) 第2回 感染管理のパラダイムシフト～何を変えれば良くなる?～ (平成26年8月29日) 第3回 ここがポイント! 抗菌薬 (平成27年2月3日, 13日) 平成27年度 第1回 感染対策 - 愛媛大学病院での現状 - (平成27年6月1日, 2日, 3日, 4日, 5日) 第2回 MERS - 今わかっていること - (平成27年6月17日) 第3回 細菌検査室からの話題 (仮題) (平成27年1月又は2月開催予定) | |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況 | |
| ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ICT会議において事例を検討し、問題点の分析を実施している。またその結果を含めて院内感染対策委員会で報告、重要な事例については、病院運営委員会及び病院連絡協議会に報告している。 また研修会については、参加者アンケートから研修会の要望を調査し、次年度の研修計画の参考としている。 | |

(様式第6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|-------|
| ① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況 | 有・無 |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年 2 回 |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1) 医薬品の取り扱い (2) 【平成26年12月2日】</p> <p>a) 医薬品情報について</p> <p>b) 麻薬管理について</p> <p>c) 抗がん薬の取り扱いについて</p> <p>2) 医薬品の取り扱い (2) 【平成26年6月24日】</p> <p>a) 持参薬の取り扱いについて</p> <p>b) 処方薬について</p> <p>c) 注射薬について</p> | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | |
| <p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>1) 医薬品安全管理責任者(薬剤部長)の配置</p> <p>2) 医薬品安全使用研修の実施</p> <p>3) 医薬品業務手順書の実施事項</p> <p>i) 病院等で用いる医薬品の採用・購入に関する事</p> <p>ii) 医薬品の管理に関する事</p> <p>iii) 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事</p> <p>iv) 患者に対する与薬や服薬指導に関する事</p> <p>v) 医薬品の安全使用に係る情報の取扱い(収集、提供等)に関する事</p> <p>vi) 他施設(病院等、薬局等)との連携に関する事</p> <p>4) 医薬品業務手順書に基づく業務については、従業者の業務が医薬品業務手順書に基づき行われているか定期的に確認し、確認内容を記録</p> <p>5) 医薬品安全使用のための情報収集、発信は薬品情報室か一元管理して医薬品添付文書情報、医薬品製造販売業者等から広く情報収集し、従業者に周知徹底を実施</p> | |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>1) 病棟現場確認ラウンドの実施(全病棟、外来棟などの全部署を対象として、医療安全管理部(ジェネラルリスクマネージャー、医療安全管理部職員)と薬剤部職員が現場において医薬品の安全使用のための業務に関する手順書が実践されているかどうかを確認して、評価をする)</p> <p>2) 副作用報告の推進(ナランジョ及びCTCAE分類での評価を推進する)</p> <p>3) プレアボイド報告の推進と院内周知</p> | |

(様式第6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|-------|
| ① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | ☑・無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年20回程 |
| ・ 研修の主な内容： 「人工呼吸器」「補助循環装置」「注入ポンプ」「保育器」等について | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | |
| ・ 計画の策定 (☑・無) ・ 保守点検の主な内容： 「定期点検」「終業点検」 | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (☑・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 院内ホームページを利用した情報共有や定期的なインフォメーションの発刊 | |

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

| | |
|---|-----|
| ① 病院の機能に関する第三者による評価の有無 | 有・無 |
| ・評価を行った機関名、評価を受けた時期 ・日本医療機能評価機構 平成23年10月24～26日 | |

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

| | |
|--|-----|
| ① 果たしている役割に関する情報発信の有無 | 有・無 |
| ・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページ及び印刷物 ホームページ該当ページ 当院について 承認・指定状況 http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/aboutus/license 愛媛大学医学部・附属病院概要2015 31ページ (8) 医療機関の承認指定状況 | |

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

| | |
|--|-----|
| ① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無 | 有・無 |
| ・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 中央診療施設において、複数診療科等を組み合わせて診察を行っている。 小児医療総合センター（小児科、心臓血管・呼吸器外科）、呼吸器センター（第二内科、心臓血管・呼吸器外科）、脊椎センター（整形外科、脳神経外科）、睡眠センター（第二内科、耳鼻咽喉科）、循環器病センター（第二内科、心臓血管・呼吸器外科）、緩和ケアセンター（腫瘍センター、麻酔科蘇生科）、認知症疾患医療センター（精神科、薬物療法・神経内科、老年・神経内科）、子どものこころセンター（精神科、小児科）等 | |

(様式第 8)

愛大医総第 285 号
平成 27 年 10 月 1 日

厚生労働大臣 塩崎 恭久 殿

開設者名 愛媛大学長 大橋 裕

愛媛大学医学部附属病院の昨年度の業務報告において提出した年次計画の経過について

標記について、医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 20 第 6 号口及び第 7 号口の規定に基づき、次のとおり提出します。

記

1 提出した年次計画の項目

1 紹介率・逆紹介率 2 標榜する診療科 3 専門の医師の配置 4 論文発表

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

2 昨年度および今年度の実績

| 昨年度提出した年次計画書での報告事項 (実績及び予定措置) | 今年度の実績及び承認要件を満たしていない場合の理由 |
|----------------------------------|---------------------------|
| 救急科について平成26年11月1日設置予定 | 救急科について平成26年11月1日設置した。 |

(注) 1 左欄には、昨年度の業務報告において様式第 8 として報告した事項を記載すること。

2 右欄には、今年度の実績及び、承認要件を満たしていない場合はその理由を記載すること。

3 今後の具体的措置

| |
|--|
| |
|--|

(注) 本年度も承認要件を満たしていない場合、2で記載した事項以外の更なる措置を記載すること。